

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2014年 12月

「御子：あらゆる点において誘惑された」「試練、苦難、そして救出を通してキリストを映す」

「第三天使のメッセージ『神の戒めとイエスの信仰』」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「御子:あらゆる点において誘惑された」 4

聖書の教え

朝のマナ

「試練、苦難、そして救出を通してキリストを映す」 9

キリストを映して

現代の真理

「神の戒めとイエスの信仰」 72

三重のメッセージ - 第三天使のメッセージ -

力を得るための食事

「トマトソースのベジタブルパイ」 82

お話コーナー

「ちっちゃいけど、カブよいからし種!」 84

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話: 0494-22-0465

FAX: 0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話: 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話: 0980-55-8136

アクセス

ホームページ: <http://www.4angels.jp>

メール: support@4angels.jp

発行日 2014年11月30日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover and on page 7

眠っている者よ、目覚めよ

われわれは世界歴史の最も厳粛な時代に生存している。地上のおびただしい数の人々の運命が、決定されようとしている。われわれ自身の将来の幸福も、他の魂の救いも、今われわれが歩いている道にかかっている。われわれは真理のみ霊によって導かれる必要がある。キリストに従う者はみな、「主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか」と熱心にたずねるべきである。われわれは祈りと断食をもって主の前にへりくだり、主のみ言葉について、特にさばきの光景について瞑想する必要がある。われわれは今、神のことについて、深い、生きた経験を求めなければならない。一刻もむだにはできない。われわれの周囲には重大な事件が起こっており、われわれはサタンの魔法の働いている場にいるのである。神の見張り人たちよ、眠ってはいけない。敵は近くに忍び込んでいて、あなたが気をゆるめて眠気を催すならば、いつでも飛びかかってえじきにしよう待ち構えている。

多くの者は、神の前における自分の真の姿について欺かれている。彼らは自分たちは悪事を行っていないと喜んでいるが、神が彼らに要求され、しかも彼らが実行することを怠った、善にして高潔な行為のことを数えるのを忘れている。彼らは神の園の木であるだけでは十分ではない。彼らは実を結ぶことによって神のご期待に答えなければならない。自分を力づけてくれる神の恵みを通してなすことができたはずの善行をしなかった責任を、神は問われる。……

試みの時が来ると、神のみ言葉を自分の人生の尺度としてきた人たちが、はっきりわかるであろう。夏には常緑樹とほかの木々との間に著しい違いがないが、冬のこがらしが吹く時になると、常緑樹は変わらないが、ほかの木々は葉が落ちて裸になる。そのように、現在は心に偽りのある信者と真のキリスト者との見分けがつかないが、しかしその違いが明らかになる日が、今まさにわれわれに臨もうとしている。反対が起こり、頑迷と偏狭が再び吹きまくり、迫害の火が燃やされるときに、二心の偽善者たちは動揺して信仰を放棄するであろう。しかし真のキリスト者は岩のように堅く立ち、繁栄の日よりも信仰が強くなり、望みはいつそう明るくなるであろう。(各時代の犬争闘下巻 368～370)

1章 神格(3)

B. 御子(2)

あらゆる点において誘惑された

「人性という衣に覆われて、神の御子をご自分が救おうと望まれる者たちの水準にまで降りてこられた。このお方のうちには偽りも罪深さもなかった。このお方はいつも純潔で、汚れておられなかった。しかし、このお方はわたしたちの罪深い性質をお取りになった。墮落した人類と交わることができるために、ご自分の神性に人性をまとわれて、このお方は、アダムが不従順によって自分自身と世界のために失ってしまったものを、人のために再び得ようと思われた。」(ビュー・アソド・ハラルド 1896年12月15日)

「キリストの心臓はそのみ手とみ足に打ち込まれた釘によって生じたよりもはるかに鋭い痛みによって刺し通された。このお方は全世界の罪を負って、わたしたちの刑罰—不義に対する神の怒り—に耐えておられた。このお方の試練には、神に捨てられると考える激しい誘惑が含まれていた。このお方の魂は、恐ろしい試練のさなかにご自分のまっすぐな高潔さから逸脱するのではないかと、大いなる闇の圧力に苦しめられた。もし屈する可能性がないなら、誘惑は誘惑とはならない。人が悪い行為を行うように強力な感化を受け、かつ自分がそうできることを知りながら、それを信仰によって、神聖な力を固くつかんで抵抗するとき、誘惑に抵抗するのである。これがキリストの通られた試練であった。このお方はもし失敗の可能性がないなら、あらゆる点において人が誘惑されるように誘惑されることはおできにならなかったのである。このお方は自由存在者であり、アダムのように、またすべての人のように、執行猶予期間におかれていた。このお方の最後の時間、十字架にかかれながら、

このお方は人間が罪に対して苦闘するときに経験しなければならないことを完全な範囲まで経験された。このお方は人が罪に屈することによってどれほど悪くなることができるかをお知りになった。このお方は神の律法の不法の恐るべき結果をお知りになった。なぜなら、全世界の悪がこのお方の上にあったからである。」(ユース・インストラクター 1899年7月20日)

「このお方がバプテスマの後に、公生涯を始められたとき、6週間近い苦悩の断食に耐えられた。このお方の苦しみを言い表しがたいほど激しいものにしたのは、単に飢えの苦しい痛みだけではなく、このお方に非常に重くのしかかっていた世界の罪の罪深さであった。罪を知らなかったお方が、わたしたちのために罪とされた。わたしたちの罪のゆえにこのお方にのしかかったこの恐るべき罪の重さをもって、このお方は食欲に対して、世と榮譽の愛着に対して、また僭越に導く誇示に対して恐るべきテストに耐えられたのである。」(教会への証 3巻372)

なお罪を犯されなかった

「キリストはこの地上において罪のしみのない者として歩んだ唯一のお方であった。」(ヘルクテッド・メッセージ 3巻134)

「キリストの人性についてどのように考えるか、気をつけなさい。非常に気をつけなさい。このお方を人々の前に、罪の傾向をもった人として提示してはならない。このお方は第二のアダムであられた。第一のアダムは、純潔で罪のない存在として創造され、彼には罪のしみがなかった。彼は神のみかたちに創造された。彼は墮落することができ、また不法を通して墮落した。罪のゆえに彼の子孫は先天的に不従順の傾向をもって生まれた。しかし、イエス・キリストは神のひとり子であられた。このお方はご自身の上に人性を取られ、人性が誘惑されるようにあらゆる点において誘惑された。このお方は罪を犯すことがおできであったし、墮落することが可能であったが、一瞬たりとも、このお方のうちに悪の傾向は存在しなかったのである。」(SDAバイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5巻1128)

「闇の君は、このお方のうちに何も見出さなかった。一つの思いや感情においてさえ、誘惑に应じるものがなかった。」(教会への証 5 卷 422)

「〔キリスト〕は、人間の罪深さを取られることによってではなく、人間の性質を取られることによって人類の頭の立場をとられるのであった。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 卷 925)

「わたしたちはキリストの人性の完全な罪のなさに関して、疑念を与えてはならない。」(同上 5 卷 1131)

「このお方は墮落によって汚れておらず、罪を知らないお方であった。しかしなお、このお方は祈られ、しばしば強い叫びと涙をもって祈られた。このお方はご自分の弟子たちとご自身のために祈られ、こうして、人類にごくあたりまえなわたしたちの必要、わたしたちの弱さ、わたしたちの失敗をご自分と一つにされた。このお方は力強い嘆願者であられたが、わたしたち人間の墮落した性質の感情をもっておられたのではなく、同様の弱さに囲まれ、わたしたちと同じようにあらゆる点において誘惑された。イエスはご自分の御父からの助けと支えを必要とする苦悩に耐えられた。(教会への証 2 卷 508, 509)

「律法を犯したために生じたあらゆる罪、あらゆる不和、あらゆるけがれた欲がイエスの心を苦しめた。」(各時代の希望上巻 116)

わたしたちは同じ方法で勝利できる

「誘惑の下に陥る多くの人々は、キリストの神性がこのお方が勝利するのを助けた、そして人には有利になるこの力がないと弁解して言い逃れをする。しかし、これは誤りである。キリストはすべての人の手の届くところに神聖な力を持ってこられた。神の御子は人のうちにある道徳的な力が弱いことをご覧になったがゆえに地上に來られたのである。このお方は有限な人間を神との緊密なつながりのうちに入れるために來られた。人が勝利者になるのはこのお方の人性の力が神聖な力と結合することによってである。」(ユース・インストラクター- 1899 年 12 月 28 日)

「イエスは、人がイエスに対する信仰を通して持つことのできないような特

性をあらわしたり、能力を働かせたりされなかった。キリストの完全な人性は、キリストに従うすべての者が、キリストと同じように神に服従するときに所有することのできるものである。」(各時代の希望下巻 147)

「わたしたちはキリストが人として誘惑に抵抗されたのかについて疑問を持つように誘惑されるとき、真理を求めて聖書を探らなければならない。人類の身代わり、また保証として、キリストは御父に対して罪人と同じ立場におられた。キリストは力を求めて御父により頼む特権を持っておられたが、わたしたちも持つことができるのである。」(ユース・インストラクター 1899 年 12 月 28 日)

「神は御子自身のうちに人間の性質を取り入れ、これを一番高い天にまで持ち続けさせられた。……キリストのうちに、天の家族と地の家族が一つに結ばれている。」(各時代の希望上巻 11, 12)

キリストのとりなし

キリストがわたしたちの罪のために十字架上で死なれたのち(コリント第一 15:3)、キリストは三日目によみがえられた(ルカ 24:19-24, 46; コリント第一 15:4); そして、わたしたちのためにとりなしをし、贖罪の働きを完成させるため(ヘブル 9:24; 7:25; ローマ 8:34; テモテ第一 2:5; ヨハネ 14:6; 使徒行伝 4:12)、40 日後に昇天された(使徒行伝 1:3, 11)。このお方の血の功績を通して(ヘブル 9:11-14; 黙示録 7:14)。聖所の清めと罪の除去(使徒行伝 3:19)、贖罪の最終段階が(ダニエル 8:14; ヘブル 8:1-4; 9:23)、天の聖所の至聖所が開かれた(黙示録 11:19) 1844 年に始まった。

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。」(各時代の大争闘下巻 222)

「神聖な仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利したものがみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもどって『以前の主権』を彼とともに継ぐ者となるように、嘆願されるのである(ミカ書 4:8)。」(同上下巻 216)

「ご自分のしみのない生涯、ご自分の従順、カルバリーの十字架上のご自

分の死によって、キリストは失われた人類のためにとりなしておられた。そして今、単なる嘆願者としてではなく、わたしたちの救いの将としてわたしたちのためにとりなしをして下さるだけでなく、勝利者としてご自分の勝利を主張なさるのである。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 930, 931)

キリストを映して

Reflecting CHRIST



12月 「試練、苦難、そして救出を通してキリストを映す」

12月1日

神はわたしたちを 完全な信頼へと導かれる

「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。」(マラキ 3:3)

精錬の工程は、人間の性質にとって耐え難いものである。しかし、それによつてのみ品性からかすが清められるのである。試練という炉の中で、わたしたちはキリストのみかたちを反映するのを妨げているかすから清められる。神はすべての試練を測られる。このお方はすべての魂を試す炉の火を見ておられる。

試練を通して、神はご自分の子らを完全な信頼へと導かれる。「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、わたしのうちにあなたがたは平安を持っている」とキリストは言われる。わたしたちが神の王国へ入るのは、多くのなやみを通してである。……

十字架なくして、冠はない。わたしたちは試練なくして、どのように主にあって強くなることができるであろう。身体的な強さを得るためには、運動しなければならない。強い信仰を持つためには、わたしたちの信仰が試される環境にわたしたちがおかれなければならない。抵抗した一つ一つの誘惑、雄々しく耐えた一つ一つの試練は、わたしたちに新しい経験を与え、品性建設という働きにおいて前進させる。わたしたちの救い主はあらゆる方法で試されたが、なおたえず神のうちに勝利しておられた。あらゆる環境下で神の力のうちに強くあり、キリストの十字架を誇りとすることが、わたしたちの特権である。

苦難を通して、神はわたしたちの品性にある疫病のようなしみをわたしたちに明らかにされる。それはご自分の恵みによって、わたしたちが自分の欠点に

打ち勝つことができるためである。自分自身も知らなかった部分がわたしたちに明らかにされ、神の譴責と勧告を受け入れるかどうかテストが訪れる。試練に導き入れられたときに、いらだったり、案じたりしてはならない。わたしたちは反逆したり、キリストのみ手から出たのではないかと案じたりすべきではない。神のみ前に魂をへりくだらせるべきなのである。

自分自身を喜ばせる光のうちに物事を見たいと願う者にとって主の道はぼんやりしている。それらはわたしたち人間の性質には暗く、喜びがないように見える。しかし、神の道は憐れみの道であり、目的地は救いである。

エリヤは荒野でもはや十分であると言い、死ぬことを祈ったとき、自分が何をしているのかわかっていなかった。主はその憐れみのうちに、彼をその言葉通りには受け取らなかった。エリヤにはまだなすべき大きな働きがあった。そして自分の働きを果たしたとき、彼は荒野で失望と孤独のうちに滅びるのではなかった。彼は地のちりの中に沈むのではなく、天の馬車に護衛されていてと高きみ座にまで栄光のうちにあげられるのであった。……

「神に戒められる人はさいわいだ。……彼は傷つけ、また包み、撃ち、またその手をもっていやされる」。……すべての打ちひしがれた者に、イエスは癒しの奉仕を持って訪れて下さる。死別、痛み、苦しみの生涯は、このお方の尊いご臨在によって明るくされることができる。(サイン・オブ・タイムズ 1902年2月5日)

12月2日

試練の中で喜ぶ

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。」(ヘブル 4:15)

主をほめたたえよ。わたしたちには、わたしたちの弱さを思いやることのできる憐れみ深くやさしい大祭司がおられるからである。わたしたちはここで休息を期待してはいない。断じてない。天への道は十字架を負う道である。その道は細くてせまい。しかし、わたしたちは栄光の王がわたしたちの先にこの道を歩まれたことを知って快活に前進するのである。

わたしたちは道のりが険しいことをつぶやかず、イエスのみ足の跡をたどり、柔和にイエスに従う者となるのである。このお方は悲しみの人で病を知っておられた。このお方はわたしたちがご自分の貧しきを通して富んだ者となることができるために、貧しくなられた。わたしたちは試練のうちに喜び、その報い、すなわちあふれるばかりの「永遠の重い栄光」をいつも心に覚えているのである。

わたしたちは試練があるからといって不平の思いを抱かない。神のいとし子らにはいつも試練がある。そしてこの地上でよく耐えた一つ一つの試練は、ただわたしたちを栄光において富む者とするにすぎない。わたしは苦難の部分を渴望する。わたしはたとえできたとしても、苦難なしに天へ行き、イエスに会うことは望まない。このお方は、わたしたちのために非常に豊かな嗣業を買い、そのために非常に苦しまれたのである。そして、苦難に会うことなく、真理とイエスのために自分たちの命を捨てた殉教者たちに会おうとは思わない。断じてない。苦難を通してわたしが完全なものとされるように。わたしはキリストの苦難においてこのお方にあずかることを切望する。なぜなら、もしあずかるな

らば、わたしはこのお方の栄光においてこのお方にあずかるようになることを知っているからである。イエスはわたしたちの型であられる。わたしたちの生涯が可能な限り、キリストの生涯と似たものになるよう研究しようではないか。

わたしの魂は生ける神をしたい求めて叫ぶ。わたしの存在そのものがこのお方を切望する。ああ、このお方のうるわしいみすがたを完全に映すことを！ああ、このお方にあますことなく献身することを！ああ、大事な自己が死ぬことはなんと難しいことであろう。わたしたちは欠けることのない救い主のうちに喜ぶことができる。このお方はすべての罪からわたしたちを救うお方である。わたしたちは神のうちに閉じ込められて、日々次のように言うことができる。「生きているのは、もはや、わたしではない」。御心のよしとされる「その願いを起させ」、「キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」。神に栄光あれ。わたしは自分の命がキリストと共に神のうちに隠されていることを知っている。

幕が引き上げられた。わたしは聖徒たちのために積み上げられている報いを見た。わたしは来たるべき世界の喜びを味わった。そしてそのためにこの世界はわたしにとってすっかり魅力を失った。わたしの愛情、わたしの関心、希望、わたしのすべては天にある。わたしは王に、わたしの魂が愛するお方に、そのうるわしさのうちに会いしたいと切望する。天、愛する天。「わたしはそこにいることを切望する。そして『まもなく』だと思つと、キリストの再臨を待ちきれない気持ちである」。イエスを通して与えられる不死と永遠の命の良き希望のゆえに、主をほめたたえよ。(手紙 9、1851年)

12月3日

神はご自分の民を やさしくかえりみておられる

「主の目は正しい人をかえりみ、その耳は彼らの叫びに傾く。」(詩篇 34:15)

あなたは失望のうちに沈む必要はない。弱った心は強くされる。失望している者は希望を持つ者とされる。神はご自分の民をやさしくかえりみておられる。このお方の耳は彼らの叫びに傾く。わたしは神のみ事業のために懸念していない。このお方はご自身のみ事業の責任を持って下さる。わたしたちの義務は自分たちの分と場所を占め、……十字架の下でへりくだって生き、このお方のみ前に忠実に聖なる生涯を送ることである。わたしたちがこれを果たすなら恥をこうむることなく、かえって、わたしたちの魂は聖なる大胆さをもって神に信頼するのである。

神はわたしたちを重荷から解放してくださった。このお方はわたしたちを自由にして下さった。……わたしたちの敵は勝利するかもしれない。彼らは虚言を語り、中傷する彼らの舌が、中傷、欺瞞、偽りを仕立て上げるかもしれない。しかし、わたしたちは動かされることはないのである。わたしたちは自分たちが信じているお方を知っている。わたしたちはむなしく走ることも、むなしく労することもない。イエスはわたしたちをご存知である。……精算の日が訪れ、すべての人は自分たちが自ら為した行いにしたがって裁かれるのである。……

確かに世は暗い。反対はますます強くなるであろう。軽薄な者やあざける者は、その悪においてますます大胆そして頑なになるであろう。しかし、それらすべてのことがあっても、わたしたちは動かされないのである。わたしたちは目標のはっきりしない走り方はしてこなかった。断じてない。わたしの心は定まっており、神に信頼している。わたしたちには欠けるところのない救い主

がおられる。わたしたちはこのお方の豊かな満ちみちた徳のうちに喜ぶことができる。わたしはもっと神に献身し、もっとこのお方にお捧げすることを切望する。この世はわたしにとって暗すぎる。イエスはご自分のおられるところにわたしたちもいることができるように、行ってわたしたちのために場所を用意すると仰せになった。それゆえに神をほめたたえよ。わたしの心は励ましにみちた展望に喜びはずむ。

宗教はあまりにも鉄の箱の中に閉じ込められてきた。純粹で汚れていない宗教は、わたしたちを幼子のような単純さへ導く。わたしたちはへりくだりをもって祈り、語り、神の栄光だけに目を留めていたいのである。今まであまりにも力のない信心のかたちが多すぎた。神の御霊の注ぎは、まさにその注ぎを感謝して認めるように導く。そしてわたしたちが神のすばらしい愛を感じ、自覚するとき、沈黙を守るのではなく、感謝の声をもって神にいけにえを捧げ、わたしたちの心と声をもって、このお方に旋律を奏するのである。わたしたちの足をとこしえの岩の上に据えよう。そうすれば永続的な支えと慰めを得る。わたしたちの魂は揺れることのない信頼をもって神のうちに安らぐ。

なぜ泉は満ちて無償であるのに、わたしたちはほとんど訪れないのであろうか。わたしたちの魂は主のうちに活気づけられ、繁茂するために、しばしば泉から飲む必要がある。救いを持たなければならない。生きた信心がなければ、わたしたちの宗教はむなし。形式は、わたしたちにとって何の役にも立たない。わたしたちに神の御霊の深い働きがなくてはならない。(手紙 2, 1856 年)

12月4日

キリストの強さのうちに、 命の闘いを戦う

「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。」(エペソ 6:13)

キリストの名を名乗るすべての人は、この聖句を何度も繰り返し読み、それから、次のように自問しようではないか、わたしはキリストと共に成功して働く共労者となることができるために、神の武具で全身覆われているであろうか。わたしたちが自分自身を知れば知るほど、自分の動機や願望を吟味すればするほど、自分たち自身の力で主の闘いを戦うのはまったく不可能だということを感じて良みに痛感するようになる。……

神はあなたが悪に対する闘いで遭遇するすべての試練や困難をご存知であることを信じるように、あなたの心を固く据えなさい。なぜなら、どの魂でも不信を語ることによってこのお方の力を矮小化することは、神を辱めることだからである。

この世は神の労される大きな畑である。このお方はそこに住む人々をご自分のひとり子の血をもって買われた。そしてこのお方はご自分の憐れみのメッセージがすべての人に届くよう意図しておられる。この働きをなすように任命されている人々はテストされ、試されることになる。しかし、彼らはいつも神がそばにおられて、自分たちを強め、支えてくださることを覚えているべきである。このお方はわたしたちがどんな折れた葦をも頼みとするようには求めてはおられない。わたしたちは人間の助けを捜し求めるべきではない。神はわたしたちが神のおられるべき場所に人間をおくことを禁じておられる。……主なるエホバこそ、「とこしえの力」であられる。

バプテスマのヨハネの弟子たちとのキリストの経験のうちに、信仰の教訓がわたしたちに与えられている。独房の中に投獄され、ヨハネは失望に陥った。そして彼は自分の弟子たちをイエスに遣わし、次のように尋ねた、「きたるべきかたはあなたなのですか。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか」。キリストはこれらの使者たちがどのような用向きで来たのかをご存知であった。そしてご自分の力を強力に示すことによって、このお方は彼らにご自分の神性について間違う余地のない証拠をお与えになった。群衆に向かって、このお方は語られた、すると耳しいはこのお方のみ声を聞いた。このお方が再び語られると、盲人の目が開かれ、自然の美しさを眺めた。……このお方がみ手を差し出された。するとこのお方が触れたときに、熱は苦しんでいる人々を去った。このお方のご命令に悪霊に取り付かれた人々は癒され、このお方の足元に伏して、礼拝した。その後、ヨハネの弟子たちに向き直って、次のように言われた、「行って、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい」。

これらの力強いわざをなさった同じイエスが、今日わたしたちの救い主であられ、バプテスマのヨハネのためにご自分の力をあらわされたように、わたしたちのためにもご自分の力を喜んであらわしてください。わたしたちが逆境にふさがれて、越えがたいと思える困難に取り囲まれているとき、つぶやくのではなく、過去の愛に満ちた主の優しさを覚えているべきである。イエス、すなわちわたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるイエスを仰ぎ見つ、わたしたちは見えない方を見ているようにして忍びとおすことができる。そしてこうすることによって、わたしたちの思いが不信という影に曇らされることから守られるのである。(#インズ・オブ・タイムズ 1896年9月17日)

12月5日

神はご自分に対する わたしたちの忠誠を試される

「イスラエルの人々の全会衆は、……レピデムに宿営したが、そこには民の飲む水がなかった。」(出エジプト記 17:1)

神のご命令によって、イスラエルの子らはレピデムへ導かれたが、そこには水がなかった。雲の柱に包まれたお方が彼らを導いておられたのであって、この場所に宿営したのは、このお方ははっきりしたご命令によるものであった。神は水がないことをご存知であった。そしてこのお方はご自分の民の信仰を試すためにここへ導かれたのであった。しかし、彼らはこのお方が信頼することのできる民であることを証明することになんと失敗したことであろう。

繰り返し何度もこのお方はご自身を彼らに表してこられた。このお方は彼らの救出を果たすためにエジプトにおいてすべての長子を殺し、彼らを奴隷の地から高きみ手をもって導き出されたのであった。このお方は彼らを天使の食物で養い、彼らを約束の地へ導くとの契約を結ばれた。しかし、今、困難が自分たちの前に生じると、彼らは反逆を起こし、神を信頼せず、モーセが自分たちと自分の子らとをエジプトから導き出したのは、ただ荒野で渇きで死なせるためだとつぶやくのであった。……

今日多くの人々は自分たちがクリスチャン生活を始めると、何の欠乏も困難もなく自由になると考えている。しかし、キリストの後に従うために自分の十字架を取り上げるすべての人は、その経験においてレピデムへ来る。人生は緑の牧場と涼やかな小川だけでなりたっているのではない。失望がわたしたちを襲い、欠乏が訪れ、困難な場所へ追い込む状況が生じる。自分たちの考える最善を尽くしながら、狭い道を従っていくとき、わたしたちは嘆かわしい試練

が自分たちに訪れるのを見出す。……良心が打たれ、わたしたちはもし神が共に歩んでくださっているなら、こんなに苦しむことはないはずだと考えるのである。……

しかし昔から主はご自分の民をレピデムへ導いてこられた。そしてこのお方はご自分への忠実さと忠誠を試すために、わたしたちをもそこへ導くことを選ばれるであろう。わたしたちへの憐れみのうちに、このお方はいつもわたしたちを最も安易な場所におかれるとは限らない。なぜなら、もしそうすれば、わたしたちは自己満足のうちに危急時に主が自分たちの助け手であられることを忘れてしまうからである。しかし、このお方はわたしたちの危急時にご自身を表し、わたしたちの状況が何であろうと関係なく、わたしたちの意のままに豊かな供給を表そうと切望しておられる。そして失望と試練は、わたしたちが自分自身の無力さを悟り、子供が飢え渇く時に自分の地上の父親に求めるように、主に助けを求めることを学ぶために、わたしたちに訪れることが許されているのである。

わたしたちの天父には、火打石のように固い岩を、命を与え活気づける流れに変える力がある。わたしたちは神と顔と顔を合わせてお会いする時まで決して、……どれほど多くの重荷をわたしたちのために負ってくださったか、またわたしたちが幼子のような信仰をもってこのお方の許へ持って行きさえすれば、どれほど多くの重荷を喜んで負ってくださったはずであるかを知ることはない。(サインズ・オブ・タイムズ 1896年9月10日)

12月6日

つぶやく代わりに、信仰を働かせよう

「ピリポはイエスに言った、『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい。わたしたちは満足します。』」（ヨハネ 14:8）

キリストの昇天直前に、ピリポはこのお方に言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい。わたしたちは満足します」。彼の不信仰を悲しまれて、キリストは彼に向かって言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか」。あなたと歩み、あなたと語り、奇跡によってあなたを養いながら、なおあなたはわたしが神から遣わされた者、「道であり、真理であり、命で」あり、天から御父を表すために来たのだということがわかっていないなどということがありえるだろうか。

「わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。」「わたしを見た者は、父を見たのである」。なぜなら、わたしはこのお方の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿」だからである。……

あまりにもしばしばわたしたちは自分の不信仰のためにイエスの心を悲しませる。わたしたちの信仰は近視であり、わたしたちは試練によって自分たちの先天的後天的悪への傾向が出てくるのを許す。厳しい状況へ導かれたとき、わたしたちはつぶやき、文句を言うことによって神を辱める。その代わりに、わたしたちは自分たちよりも困窮している人々や、光を求めているながらそれを見出すことができない人々を助けることによって、自分たちがキリストの学校で学んだ者であることを表すべきである。そのような人々は特別にわたしたちの同情を主張する権利があるが、彼らを引き上げる代わりに、わたしたちは自分自身の利益や試練に没頭して、反対側を通り過ぎてしまう。断固とした不信仰

を表さないまでも、つぶやきや文句の精神を表すのである。

「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。キリストはすでにご自身が常にご臨在下さる救い主であられることを証明してくださった。このお方はわたしたちの状況をすべてご存じなのであるから、試練の時にわたしたちはこのお方がご自分の聖霊を与え、わたしたちのためにこのお方が表してくださった多くの力を思い出すことができるように祈ることができないであろうか。わたしたちはかつての場合と同様にわたしたちを喜んで助けてくださることを信じるのができないのであろうか。このお方がかつてご自分の僕たちを取り扱ってくださった方法は、わたしたちの思いから消えてしまうのではなく、それらの記憶がつねにわたしたちを強め、支えるべきである。

どんなに苦難があろうと、キリストからわたしたちを引き離すことはできない。もしこのお方がレピデムへわたしたちを導かれるとすれば、それはわたしたちの益とご自分の御名の栄光のためになるのをご覧になるからである。もしわたしたちが信頼する信仰をもってこのお方を眺めるとすれば、このお方ご自身が良いと思われる時に、メラの苦さを甘さに変えてくださる。このお方は固い岩を開いて、冷たい流れをほとばしり出させることがおできになる。そうであれば、わたしたちは過去の憐れみのゆえに賛美と感謝のうちに声を上げ、このお方が悩みの時にいつも共にいてくださるという確信に満ちて出て行かないであろうか。(サイン・オブ・タイムズ 1896年9月17日)

12月7日

神の恵みはすべての苦難を甘くする

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりぞぎ、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいなさるのである。」(ヨハネ 15:1, 2)

「あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう」。親木を栄養づけている樹液と栄養が、まさにぶどうの木につながっている枝を栄養づける。キリストは枝が実を結ぶことができるように、栄養、すなわち活力、命、霊、力を与えるぶどうの木によってあらわされている。そして苦難や失望が訪れるとき、あなたは世とはまったく異なる品性を表すのである。そこには、あなたがイエス・キリストとつながっており、あなたをあらゆる苦難や失望や試練において支える力があるという証拠がある。そしてこの力とこの恵みが一つ一つの苦難を甘くする。苦難の杯があなたの唇におかれる〔とき〕、そこには慰め主であり、助け主であられるお方がおられる。慰めの杯が手のうちに置かれ、それはあなたの人生で最も幸福な時となることができる。

「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない」。……ここにわたしたち一人ひとりの魂が個々に受けるべきもっとも貴重な真理の宝石がある。ここに聖書における唯一の選びがあり、あなたは忠実であることによって、キリストに選ばれた者であることを証明することができる。あなたはぶどうの木に宿ることによって、自分がキリストに選ばれた者であることを証明することができる。……

キリストは欠けることのない力、欠けることのない実を結ぶ資質が、ぶどうの親木の中にあることをはっきりとお教えになった。そうであれば、わたしたちはキリストのうちに宿り、キリストから栄養を引き出そう。そのときわたしたちは何を見るであろうか。わたしたちは何かを見るようになり、世は何かを見るようになる。信じる者と信じない者との間、神に従う者とこのお方に従わない者の間には、はっきりと区別する線がある。彼らの結ぶ実には決定的かつ顕著な違いがある。……実とは品性である。……

あなたの持っているすべての能力、あなたの持っているすべての力、あなたの理性の力やあなたが持っているすべてのタラント、あなたが持っているすべての才能はまっすぐ宗教生活に持ち込まれるべきである。そのとき、親切、同情、憐れみ深さ、神の愛が生けるぶどうの木に接がれた枝に生じる実である。その後、豊かな房は……垂れて、もっとも実を結び、もっとも豊かな房をもつ枝こそ、キリストのような心の低い真のへりくだりを持っていることを示すのである。このお方はわたしから学びなさいといわれる。わたしの許へ来なさい。今こそわたしたちはみなそれを聞こうではないか。それは話し手からの招きではなく、イエス・キリストご自身からの招きなのである。(原稿 43, 1894 年)

12月8日

わたしたちの試練が何であろうと、 キリストは近くにおられる

「イエスは……海の上を歩いて彼らの方へ行かれた。弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、……おじ惑〔った〕。……しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、『しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない』と言われた。」(マタイ 14:25～27)

わたしたちは見張っていなければならない。キリストは目を覚まして祈っているように仰せになった。このお方はわたしたちのだれをも欺かれない。このお方はわたしたちを高いところへ連れて行き、悪の連合とイエス・キリストを信じる信仰を持っているすべての者に敵対して隊列を組んでいる闇の権力の強さを示し、わたしたちに代価を考えるようにおなじになる。しかし、このお方はわたしたちのためにもっと多くのことをなして下さる。このお方はさらなる励ましを与えずにわたしたちをほうっておかれることはない。このお方は試練と争闘をわたしたちに示して、そのまま闘いを戦う助けを与えずにおくようなことはなさない。かえってこのお方は神が救いを受け継ぐべき人々に仕えるご自分の御使を持っておられることをわたしたちに教えて下さる。このお方のみ座の周りには千々万々の御使たちがいる。

彼らの働きは何であろうか。それは自分たちの主人であられるイエス・キリストのご命令を行うことである。そして彼らは何をするのであろうか。彼らはキリストがあなたを選ばれたこと、天使たちがあなたと共にいること、そして彼らがあなたと共に留まることをあなたに告げる。あなたには、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対して戦うための力をほとんど持ち得ないが、ここに強かろうと弱かろうと……すべての魂が〔勝利〕できるように、天から遣わされた助けをあなたに指し示すお方がおられる。……

わたしたちはイエス・キリストが死なれたことを信じると言うが、はたしてこ

のお方はあなたの個人的な救い主であられるだろうか。ここに信仰が関わる。……あなたは生きた信仰の手でこのお方をつかんでいるであろうか。あなたはこのお方に手を伸ばして、ペテロのように「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」と言うであろうか。このお方はあなたを救ってくださる。あなたはそこで弟子たちが船で苦勞し、陸地にたどり着く望みをすっかり失ってしまったことを覚えているであろう。自分たちの恐るべき危険の中で、彼らはあわ立つ大波の上を、あたかもしっかりした大地のように歩を進めながら自分たちのほうへ向かってこられるお方を見た。そして彼らは恐れて言った、「あれは幽霊だ」。しかし、キリストは、「わたしである。恐れることはない」と言われる。

ああ、「わたしである」とは、どれほど意味があることであろう！それは悩みや困惑のうちにいるとき、わたしたちにとってすべてを意味する。あなたはこのお方のみ声が聞こえないであろうか。あなたはこのお方が「わたしである。恐れることはない」と言われるのを聞くことができないであろうか。……このお方は自らわたしたちに語りかけてくださる。わたしたちの弱さや試練が何であろうと、キリストはあなたの近くにおられる。このお方は「わたしである。恐れることはない」と言われる。……

だれかが〔自分の〕手をイエスに向かってあげながら、「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」と言うのに〔そのわきを〕、このお方が通り過ぎていかれることがあるだろうか。断じてない！このお方は最も弱々しい叫びを聞かれるイエスである。わたしたちはだれも弱ったり、叫んだり、失望したりする必要はない。わたしたちはペテロのように、自分たちの周りの闇や試練を眺めて、弱る必要はない。……主はペテロの手を取って、彼を救ってくださった。そしてこのようにわたしたちには救い主がおられる。そして、あらゆる試練において、イスラエルの主なる神に信頼すべきである。そうすればこのお方はわたしたちの助け主となってください。(原稿 10, 1891 年)

12月9日

痛みの価値

「わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。」(ローマ 8:18)

迫害のもとに受けた使徒ヨハネの経験には、クリスチャンにとってすばらしい力と慰めの教訓がある。神は悪い人々の計画を阻止なさるのではなくて、彼らの策略を、試みや戦いの中にいながら信仰と忠誠を守り通す人々の利益となるように導かれる。福音の働き人は、しばしば迫害の嵐、激しい反対、不当な恥辱の真っただ中で働きを進めることがある。そのようなとき、試練や苦悩の炉の中で得られる経験は、そのために受ける痛みのすべてに値するものだということを思い出そう。こうして神はその子らをご自身のもとに引き寄せられて、彼らの弱さと神の力をお示しになるのである。神は、神により頼むことを彼らにお教えになる。こうして彼らに危急に立ち向かう準備をさせ、責任のある地位につき、与えられている力を尽くして大切な目的を果たすようにさせて下さる。

各時代にわたって、神に任命されたあかしびとは真理のために恥辱や迫害に身をさらしてきた。ヨセフは徳と高潔を守りつづけたためにそしられ、迫害された。神に選ばれた使命者ダビデは敵から猛獣のように追われた。ダニエルはあくまでも天に忠誠であったために、ししの穴に投げ入れられた。ヨブはこの世の財産を奪われ、肉体的に非常に苦しめられ、親せきや友人にきらわれた。それでも彼は高潔を保ちとおした。

エレミヤは神から語るようにと与えられた言葉を語らないではいられなかった。彼のあかしは王やつかさたちを非常に怒らせ、そのため彼は胸の悪くなるような土牢に入れられた。ステパノはキリストと十字架につけられた主のことを宣べ伝えたために、石で打たれた。パウロは異邦人に対する神の忠実な使命

者であったために、投獄され、むちで打たれ、石で打たれ、ついに死刑にされた。ヨハネは「神の言とイエスのあかしとのゆえに」、パトモス島に流された。

こうした人間の不動の信念をあらわす模範は、神の約束—神の内住と支えて下さる恵み—の確かなことをあかししている。彼らはこの世の権力によく耐える信仰の力を、りっぱにあかししている。……

彼らはサタンよりも偉大なかたの力をあかしした。……試練と迫害を通して神の栄光—神のご品性—が、その選民の中にあらわされる。世人に憎まれ迫害されるキリストの信者たちは、キリストの学校で教育され訓練される。地上にあっては、狭い道を歩き、苦難の炉で精錬される。(患難から栄光へ下巻 278～280)

12月10日

神は試練を通して 自己に信頼しないことを教える

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると、主は言われる。」(イザヤ 55:8)

神のための働き人は、しばしば人生の活動が働きの前進のために重要不可欠だと考える。彼は自分をいなければならない人物だと考える。そのため言うことなすことすべてに自己が混じる。そのとき、神は介入される。このお方はご自分の子らを、その注意を引いていたものから引き離し、ご自分の栄光を見ることができるようになる。このお方は次のように言われる、「この哀れな魂はわたしとわたしの力を見失ってしまった。彼の目は自分の主に固定していない。わたしはわたしの光とわたしの活力を彼の心のうちに差し込み、こうして彼が正しい分野で働く準備をさせなければならない。彼の目に天来の目薬をぬることによって、わたしは彼が真理を受けれるように準備しよう」。

働き人が自分の失敗を徳だと思い、ひいては自己称揚によって墮落することがないように、主は魂を自己満足と自己依存に対して防備を固めざるを得ないのである。ときに主は人間にとって痛みを伴う工程によって魂に至るご自分の道を開かれることがある。清める働きは偉大な働きであり、いつでも人間に苦しみと試練という代価を支払わせる。しかし、火がかすを焼き尽くすまで、そして彼が神聖なみかたちを映すことができるまで、彼は炉の中をくぐらなければならない。

自分自身の傾向に従う人々は、主のなさっていることをよく判断できず、不満でいっぱいである。彼らは勝利のあるところに失敗を見、益のあるところに損失を見る。ヤコブのように彼らは「これらはみなわたしの身にふりかかって来るのだ」と叫ぶばかりであるが、彼らが

文句を言っていることそのものが彼らの益のために相共に働いているのである。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる」。……

パウロの経験を少し考えてみよう。使徒の働きが試練を受け迫害されている教会を強めるために最も必要だと思われたその時に、彼の自由は奪われ、鎖につながっていたのである。しかし、これこそ主の働かれる時であり、勝ち得た勝利は尊いものであった。

どう見ても、パウロがほとんど何もし得ないと思われたときに、真理は王家への入り口を見出したのであった。これらの偉人たちの前でのパウロの雄弁な説教によってではなく、彼のかせが彼らの注意を引いたのであった。捕らわれている間、彼はキリストのための勝利者であった。長く不正な監禁に服している彼の忍耐と柔和は、これらの人々が品性を測るよう導いた。彼は信仰にある自分の愛する人々に最後のメッセージを送るとき、自分の言葉をもって、カイザルの家にいるこれらの聖徒たちから他の都市にいる聖徒たちへのあいさつを集めている。(サイン・オブ・タイムズ 1900年2月21日)

12月11日

試練の下での柔和

「そして兄弟たちのうち多くの者は、わたしの入獄によって主にある確信を得、恐れることなく、ますます勇敢に、神の言を語るようになった。」(ペリピ 1:14)

彼の模範によって、クリスチャンたちは、みわざ—その公の活動からはパウロはすでに身をひいていたけれども—の唱道者として、より大きな働きへとかりたてられた。このように使徒のなわめの影響力は大きかった。彼の力と有用さが断ち切られたように見え、どうみても何もできそうもない時に、パウロは全く自分がしめ出されたようにみえた地からキリストのために、麦束を集めるように魂を集めたのである。

二年間の捕らわれの身が終わる前にパウロは、「わたしが獄に捕われているのはキリストのためであることが、兵營全体にもそのほかのすべての人々にも明らかにな」ったと言うことができた(ペリピ 1:13)。そして、ペリピ人へあいさつを送った人々の中に、特に「カイザルの家の者たち」がいることをパウロは述べている(ペリピ 4:22)。

忍耐は勇氣と同様、勝利するものである。試練の時に忍耐強いことは、事業をなすときの大胆さと同じほど、魂をキリストに導くことができる。死別や苦しみの時に忍耐と快活さをあらわし、平安で穏やかなゆるがない信仰をもって、死そのものにさえも向かうクリスチャンは、忠実に働いて長い一生になし遂げることができる以上のことを、福音のためにすることができる。神のしもべが活動的な働きから後退させられるとき、先を見通すことができないうわれわれは、その不可解な摂理を歎くが、そうでなければ決してなされないような働きをなし遂げるために、神は摂理を計画されるのである。

キリストに従う者は、もはや神や真理のために、公然と積極的に働くことができなくなっても、もう奉仕することも報いをいただくこともできないなどと考

えてはならない。キリストの真の証人は、決してその務めを解かれることはない。彼らが健康な時でも病の時でも、生きていようが死んでいようが、神はなお彼らをお用いになる。サタンの悪意によってキリストのしもべたちが迫害され、彼らの積極的な働きが妨げられたとき、また、彼らが投獄されたり、死刑や火刑に処せられたとき、それは真理がより大きな勝利を得るためであった。こうした忠実な者たちが血のあかしを立てるとき、これまで疑いを持ち、半信半疑であった者たちが、キリストの信仰を悟ってキリストのために勇敢に証人台に立った。殉教者たちの灰の中から、神のための豊かな収穫が生じていた。……

使徒と彼の共労者たちは、……ネロの臣下たちを、キリストを信じる信仰へ悔い改めさせることはむだだと論じ合うこともできたかもしれない。……しかしパウロは、このようなことを理由にしなかった。彼は信仰をもってこれらの魂に福音を紹介した。そして聞いた者たちの中に、なんとしても従おうと決意した者たちがいたのである。障害や危険があるにもかかわらず、彼らは光を受け入れて、その光を他の人々にも輝かすように、神により頼んだのである。(患難から栄光へ下巻 156～158)

12月12日

パウロの信心深い生活は 抵抗しがたい力を持っていた

「あなたは全き平安をもって、こころざしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである。」(イザヤ 26:3)

ネロは、パウロを殉教させる宣告を下した。……

パウロはひそかに処刑の場に連れて行かれた。見物人はほとんどだれもその場に出ることを許されなかった。というのは、迫害者たちは、パウロの感化力が広範囲にわたっていることに驚いていたので、彼の死の光景が人々をキリスト教に改宗させるのではないかと恐れたからである。しかし、彼に付き添っていた冷淡な兵士たちでさえ、彼の言葉に聞き入り、彼が死を目の前にして明るく、喜ばしようにさえしているのを見て驚いた。彼の殉教を目撃したある者たちにとって、自分の殺害者たちに対するパウロのゆるしの精神と、キリストに対する最後までゆるぎない信頼心とは、いのちからいのちに至るかおりとなった。……

パウロの顔にあらわれていた天来の平安が、多くの魂を福音に導いたのであった。パウロは天の雰囲気を持っていた。彼と交わった人々はみな、彼がキリストとつながっていることを感じた。彼自身の生活が彼の宣べ伝える真理を例証していたため、彼の説教には説得力があった。

ここに真理の力がある。きよい生活の、気取らない無意識の感化は、キリスト教のために与えることのできる最も説得力のある説教である。議論は、たとえそれが相手に反論の余地を与えないものであっても、なお反対しか引き起こさないことがある。しかし敬虔な模範は、完全には抵抗できない力を持っている。

使徒パウロは、自分の身に迫っている苦難を忘れて、後に残して行こうとしている人々が偏見や憎しみや迫害に立ち向かわねばならないことを気づかした。彼は、処刑の場に付き添ってきた数人のクリスチャンに、義のために迫害される人々に与えられている約束をくり返して、彼らを力づけ、励まそうと努めた。試練に耐えぬく忠実な子らについて主がお語りになった事で、果たされないものは何もないと、パウロは彼らに保証した。

ほんのしばらくの間は、彼らは多くの誘惑に会ってつらい思いをするであろう。また、この世での慰めもないかもしれない。しかし彼らは、神の誠実さを保証することばで心を励まして、こう言うことができる、「わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしがゆだねたものを、かの日に至るまで守って下さることができると、確信している」(テモテ第二 1:12 英語訳)。やがて試練と苦しみの夜は終わり、平和で全き日の喜びの朝が明けるであろう。

使徒パウロは、不安と恐れを抱いてではなく、喜ばしい望みとあこがれの期待を持って、大いなるかなたをながめた。殉教の場に立っている彼には、執行人の刀も、間もなく自分の血を受けようとしている大地も目に入らない。彼は、夏の日静かな青い空を見上げ、そのかなたの永遠の神のみ座を仰ぐ。(患難から栄光へ下巻 206～210)

12月13日

ペテロは試練に耐えている人々を力づけた

「こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう。」(ペテロ第一1:7)

人間は、自分自身が悪に染まってしまっているのに、誘惑に陥っている者や過ちを犯している者にいたわりのない扱いをしがちである。人間には人の心が読めず、心のあがきや痛みを知らない。彼らは、愛の譴責について、いやすために傷つける打撃について、また、希望を告げる警告について、学ぶ必要がある。

ペテロは働きの初めから終わりまでずっと、自分の手にゆだねられた羊の群れを忠実に見守り続け、こうして、救い主から与えられた責任にふさわしい者であることを証明した。彼は絶えずナザレのイエスを、イスラエルの望み、人類の救い主としてあがめた。彼は自分自身の生涯を、大教師の訓練のもとにおいた。また、力のかぎりあらゆる手段を用いて、信者たちを活動的な奉仕のために教育しようとした。ペテロの敬虔な模範とたゆまぬ活動は、有望な多くの若者たちを励まし、彼らを伝道の働きに献身させた。

時がたつに従い、教育者として、また指導者としての使徒の感化は強まった。そして彼は、ユダヤ人のための特別な働きの手は決してゆるめなかったが、一方では多くの地方にあかしを立て、福音を信じる多くの群れの信仰を強めた。

ペテロは、その働きの晩年において、靈感を受けて「ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤおよびビテニヤに離散し」ている信者たちに手紙を書いた。彼の手紙は、試練や苦難に耐えている者たちの勇気を奮い起こさせ、信仰を強め、また、多くの誘惑の中で神とのつながりを失う危険に陥っている者たちを、再び良い働きに励ませる手段となった。これらの手紙は、キリストの苦

難と慰めを十分に受けてきた者、また、その全存在が恵みによって変えられ、永遠のいのちという確かでゆるぎない望みを持っている者によって書かれたという印象を与える。

この年老いた神のしもべは、彼の第一の手紙の最初に、主にさんびと感謝をささげている。「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。」……

新しくされた地で確かに資産を受け継ぐというこの望みを抱いて、初期のクリスチャンたちは、厳しい試練や苦難に会っている時でさえも、喜んでいた。(患難から栄光へ下巻 214～217)

12月14日

試練は教育し、清め、強める

「愛する者たちよ。あなたがたを試みる……火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。」(ペテロ第一 4:12, 13)

使徒ペテロは、預言のまぼろしを受けて、キリストの教会が入ろうとしていた危難の時代を見やり、試練や苦しみに直面してもぐらつかないようにと信者たちを励ました。「愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむこと」がないようにと、彼は書いた。

試練は、神の子らをこの世の不純なものからきよめるために、キリストの学校において与えられる教育の一部である。試みの経験がやってくるのは、神がその子らを導いておられるからである。試練や障害は、神がお選びになった訓練方法であり、神が指定された成功の条件である。

人々の心を読み取られる神は、彼ら自身が知る以上に彼らの弱さをよく知っておられる。神は、ある者たちが、正しく指導されればみわざの進展に用いられることのできる資質を持っているのを見られる。み摂理のうちに、神は、これらの人々を違った立場や様々な環境に置き、自分では気づかない、隠れた欠点を発見できるようにさせて下さる。神は彼らに、これらの欠点にうち勝ち、献身するにふさわしい者となるような機会を与えて下さる。しばしば神は苦しみの火を燃えさせて、彼らがきよめられるようにして下さるのである。

神の選民に対する神の思いやりは尽きることがない。神が、神の子らの上にもふりかかるのをお許しになる苦しみはみな、彼らの現在の、また永遠の利益のために、欠くことのできないものばかりである。キリストが地上でのご奉

仕のあいだ宮をきよめられたように、神は教会をきよめられる。神が民たちをためし、試みるためにもたらされるものはすべて、彼らが、十字架の勝利を進展させるために、より敬虔になり、更に強くなるためである。

ペテロの経験において、キリストのお働きの中に十字架を見たくない時があった。救い主が弟子たちに、ご自身に迫る苦難と死を知らせられたとき、ペテロは「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と叫んだ（マタイ 16:22）。キリストと苦しみを共にすることを恐れる自己憐憫の気持ちから、ペテロはとっさにいさめようとした。この弟子にとって、この世のキリストの道が苦悩と屈辱の中にあることは、つらい教えであり、なかなか悟ることのできない教訓であった。しかし彼は、炉の火の真ただ中でこの教訓を学ぶのであった。かつての活動的な姿が、長年の重荷と労苦のために腰をかがめている今、彼は、「愛する者たちよ。あなたがたを試みる……火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。……」と書くことができた。（患難から栄光へ下巻 223～225）

12月15日

ヨハネは過ちを果敢に対処した

「わたしたちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない。」(ヨハネ第一 1:5)

ヨハネは大きな妨害なしに自分の働きを推し進めたのではなかった。サタンはじっとしていなかった。彼は悪人たちを扇動して、この神の人の有益な命を短くしようとした。しかし、聖天使たちが、彼らの攻撃から彼を守った。……教会はその危険のうちであって、彼の証を必要としていた。

虚偽といつわりによって、サタンの密偵たちはヨハネとキリストの教理に対して反対をかき立てようとしてきた。その結果、不和と異端が教会を危険に陥れていた。ヨハネはこれらの誤謬に対して果敢に対処した。彼は真理の敵の道に防壁を築き上げた。彼は手紙を書き、これらの異端の指導者たちが少しでも助長されることがないように訓告した。

初代の教会の繁栄をおびやかしたような悪が、この終わりの時代にも存在する。ゆえに、こうした点についての使徒ヨハネの教えを、慎重に心にとめていなければならない。「愛がなければならぬ」は、どこでも聞かれる叫びである。特に、きよめられたと言っている人たちから聞かれる。しかし、真の愛は純粹であって、告白されていない罪をおおい隠すことはできない。

ヨハネの教えは、この終わりの時代の危険のただ中に生きている人々にとって重要である。彼はキリストと親しい交わりをし、キリストの教えを聞いて、キリストの立派な奇跡を目撃してきた。彼は説得力のある証を担い、キリストの敵の偽りを効果のないものとした。

ヨハネは真の聖化の祝福を享受した。しかし、使徒が罪はないと主張してはいないことに注目しなさい。彼は神のみ顔の光のうちを歩むことによって完全を求めていた。彼は、神を知っていると公言しながら、神の律法を破って

いる人は自分の告白を偽っているのだと証した。「『彼を知っている』と言いな
がら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない。」
(ヨハネ第一 2:4)。

自由を誇っているこの時代に、これらの言葉は偏見だと汚名を着せられる
ことであろう。しかし、わたしたちはクリスチャンの礼儀を示さなければなら
ない一方で、罪と罪人をそれだとはっきり言う権威も与えられている、そして、
これは真の愛とは矛盾しないと、使徒は教えている。わたしたちはキリストが
そのために死なれた魂を愛し、彼らの救いのために労すべきであるが、その一
方で罪と妥協すべきではない。わたしたちは反逆者と結託して、これを愛と呼
んではならない。

神は世のこの時代にあるご自分の民に、ヨハネが当時そうであったように、
魂を破壊する誤謬に反対して、正しいことのために果敢に立つことを要求して
おられる。(清められた生涯 64, 65)

12月16日

キリストは悲しみを通して わたしたちを引き上げてくださる

「見よ、神に戒められる人はさいわいだ。……彼は傷つけ、また包み、撃ち、またその手をもっていやされる。彼はあなたを六つの悩みから救い、七つのうちでも、災はあなたに触れることがない。」(ヨブ 5:17～19)

悩みが来る時、ヤコブのようになる人が何と多いことであろう。わたしたちはそれを敵の手と思うのである。そして暗やみの中で力が尽きるまで盲滅法に戦うのである。そして慰めも救いも見いだせない。夜明けにヤコブに触れた神のみ手は、彼が格闘していたのは契約の天使であることを明らかにした。泣きながら力尽きたヤコブは、彼の魂が慕い求めていた祝福を受けるために、無限の愛のふところに倒れ伏した。わたしたちはまた試練は益をもたらすことを学び、主のこらしめを軽んじることなく、主に責められる時、気落ちしないように学ぶ必要がある。……

神はわたしたちが傷つき破れた心をもって無言の悲しみに圧倒されるままに放置しておかれない。神はわたしたちに目をあげて、愛のやさしいみ顔を見るように望まれる。聖なる救い主は、涙で目がくもって、主を見分けられない多くの者のそばに立たれる。主はわたしたちの手をにぎり、単純な信仰をもって主を見るようにと、また、わたしたちが主に導いていただきたいと願うようになることを望んでおられる。主のみ心はわたしたちの苦しみ、悲しみ、試練にむかって開かれている。主は永遠の愛をもってわたしたちを愛し、わたしたちを慈愛をもって囲まれる。わたしたちは主のことを心に思いつけ、一日じゅう、その慈愛をめい想することができる。主は魂を日ごとの悲しみと困惑の上に引きあげ、平和の国に入れられるのである。

苦しみ悲しむ子らよ、このことを思い、望んで喜びなさい。「わたしたちの

信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」(ヨハネ第一 5:4)。

イエスと共にこの世の悲しみに同情し、その罪のために悲しんで泣く者もまた、さいわいである。そのような悲しみには、自我の思いがまじっていないのである。イエスは悲しみの人であり、どんなことばも言い表わせないような心の苦悩にお耐えになった。イエスの心は、人の罪によって裂かれ、傷つけられた。イエスは人類の欠乏とわざわいをとり除くために、必死の熱心さで労苦された。群衆が、命を得るために主のもとにこようとしのないのを見て、主の心は悲しみに打ちひしがれた。

キリストに従うすべての者は、この体験を共に持つのである。彼らが主の愛にあずかる時、失われた者の救いのための主の苦しみに入るのである。彼らは、キリストの苦難にあずかると同時に、やがてあらわれる栄光にもあずかるのである。主と共に悲しみの杯を飲み、主のみわざにおいて一つになる彼らは、主の喜びにも共にあずかるのである。……主は悲しむ者に特別なめぐみをもっておられる。その力は心を溶かし、魂を捕えるのである。(祝福の山 14～16)

12月17日

イエスへの愛は苦しみを甘くする

「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。」(コリント第二 4:17)

イエスは彼に従う者たちに、地上の栄誉や富を得たり、または、試練のない人生を送れるような希望をお持たせにならない。かえって主は彼らに自己犠牲と屈辱の道を主とともに歩む特権を提供される。というのは世が彼らを知らないからである。……

悪人と悪天使たちは無情な同盟をもって平和の君に向かって陣をしいた。救い主のことばと行ないのひとつひとつは神のあわれみの現われであったのだが、彼が世と似ていないことが、痛烈な敵意をかき立てた。……

義と罪、愛と憎悪、真理と誤謬(ごびゅう)の間には、押えがたい闘争がある。人がキリストの愛と聖潔の美しさを示すならば、彼はサタンの王国の臣下を引き離しているのである。だから悪の君はそれに抵抗して立ち上がる。……

人々が神と調和することを求める時、十字架のつまずきが今なお終わっていないことに気づくであろう。もろもろの支配と、権威と、天上にいる悪の霊は、天の律法に服従するすべての者に対抗して陣をしくのである。こうして迫害は、キリストの弟子にとっては、苦しみをひきおこすどころか、かえって喜びとなるはずである。なぜならそれは、彼らが主の足跡に従っている証拠だからである。

主はご自分の民が試練をまぬかれるという約束はなさらなかったが、はるかに良いものを約束された。主は「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」と言われた(申命記 33:25)。……もしあなたが主のために火の燃える炉を通るように召されるならば、イエスはバビロンの忠実な三人の青年たちと共におられたように、あなたのかたわらにおられる。贖い主を愛する者は、主とともに屈辱とそしりに会う機会があるたびに喜ぶ。彼らは、主を愛しているので、

主のための苦しみを甘くするのである。……

彼らは激しい戦いの中にあってもキリストに従う。彼らは自己を犠牲にし、にがい失望を経験する。しかし彼らの苦しい経験は、罪の結果とその苦悩を教えるのである。そして、彼らは嫌悪の情をもってそれを見るのである。キリストの苦難にあずかる彼らは、キリストの栄光にあずかる者とされるのである。

聖なる幻の中に預言者は神の民の勝利を見た。「またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、……勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。彼らは、神の僕モーセの歌と、小羊の歌とを歌って言った、『全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。』」（黙示録 15:2, 3）。（祝福の山 35～38）

12月18日

苦難は神の知識を広める

「苦しみを耐え忍ぶことについては、主の御名によって語った預言者たちを模範にするがよい。」(ヤコブ 5:10)

この世に生をうけた者のなかで、人の子ほど残酷な中傷を受けた者はなかった。イエスは、神の聖なる律法の原則に確固として従われたので、愚弄(ぐろう)され嘲笑を受けられた。人々は理由なしに主を憎んだ。しかし主は敵の前に冷静に立ち、非難はクリスチャンの遺産の一部であると言明しておられる。また弟子たちに、いかにして悪意の矢をふせぐべきかを教え、迫害に会っても気落ちしないようにと命じておられる。

中傷は人の評判を悪くすることはできるが、品性に汚点をつけることはできない。それは神の守りのうちにあるのである。わたしたちが罪に同意しない限り、人間でもサタンでも魂に汚点をつける力はない。神に信頼している人は、どんな苦しい試練、どんな絶望的な状況にあっても、以前自分が繁栄していて、神の光とめぐみに浴していると思えた時と全く変わらないのである。彼の言葉も、動機も、行動も、誤解され曲解される。しかし彼はもっと重大な事から関心をもつのでそれを気にしない。モーセと同じく、彼は「見えないかたを見ているようにして」……忍ぶのである(ヘブル 11:17)。

どの時代にも神が選ばれた使者たちは、ののしられ、迫害された。しかしその苦難を通して神の知識が広まったのである。キリストの弟子はみなこの列に加わり、預言者たちと同じ働きを推し進めなければならない。そして敵は真理に逆らっては何一つなし得ず、むしろ真理のためになっていることを覚えるべきである。侮辱のことばが浴びせられても、神は真理が前面に出され、検討と論議の主題になるよう意図しておられる。人々の心をゆり動かさなければならない。あらゆる論争、あらゆる非難、良心の自由を束縛するあらゆる企て

は、ともすれば眠りをむさぼりがちな人心を目ざめさせる神の手段である。

このような結果は、神の使者たちの生涯の中に何度もみられた。かの高貴で雄弁なステパノがサンヒドリン議会の扇動によって石で打ち殺された時、福音事業は何らの損失もこうむらなかつた。ステパノの顔に輝いた天の光と彼の臨終の時の祈りに聞かれた神のようなあわれみなどは、そこに立っていた頑迷な一議員の罪を指摘する鋭い矢のようなものであつた。こうして迫害者のパリサイ人サウロは、異邦人や、王たちやイスラエルの子らにキリストの名をもたらず選びの器となつたのである。(祝福の山 40 ~ 42)

12月19日

見張り、あなたの重荷をイエスにあずけよ

「これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」(ルカ 21:36)

この聖句の厳粛な言葉の中に、老若問わずすべての人の日常の道りにある義務が指し示されている。これは見張りという義務であり、この点において忠実であることに、わたしたちの現世と永遠の運命がかかっている。……

どれだけ多くの人々が、今日思い煩いという重荷の下で心に痛みを覚え、ああ、もしだれか重荷を負うのを助けてくれる人がいてくれさえすれば、と考えていることであろう。そう、あなたの重荷を負うのを助けてくださる方がいるのである。重荷を負っているあなたのために休息がある。イエス、重荷を負ってくださる偉大なお方は、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と招いてくださる。

ここに主人なるお方の約束がある。しかし、それは条件に基づいている。このお方は「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」と言われる。

「わたしのくびきは耐え難いからである」とこのお方は言われるであろうか。否、「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。あなたが負っている、非常に重く、そして大変な疲労と困惑を生じさせている重荷は、あなた自身の重荷である。あなたは世の標準に見合うことを願っている。そして野心と世的な願望を満足させようと熱心に努力することによって、あなたは自分の良心を傷つけ、ひいては自分自身の上に自責の念という余計な重荷をもたらしている。

あなたが世との区別を望まないとき、かえってあなたと世との間に何の違い

も見られることがないほど交じり合うことを願うとき、そのとき、あなたは自分がこの人生の煩いに酔っているのだということがわかる。ああ、あまりにも多くの利己的な関心があり、わたしたちをこの世に結びつけるあまりにも多くのひもがある。しかし、わたしたちはこれらのひもをいつも断ち切り、わたしたちの主を待ち望んでいる状態になければならない。

世はいつもわたしたちの魂と神との間に入り込もうとしてきた。しかし、わたしたちは、何の権利があつて、自分の心をこの世の煩いでいっぱいにするのを許すのであろうか。何の権利があつて、世に献身することにより、教会のことや自分たちの同胞仲間の利益をなおざりにするのであろうか。いったいわたしたちはキリストがわたしたちに負わせておられない重荷や煩いを自分自身で作り出すべきであらうか。……

「絶えず目をさまして祈っていなさい」。見張っている必要が大いにある。それはわたしたち自身のためばかりではなく、他の人に及ぼすわたしたちの感化力のためでもある。わたしたちの感化力は遠くにまで及ぶ。……わたしたちは、神の御霊がわたしたちの心のうちにおられるように、そしてこのお方の祝福がわたしたちの家庭にあるように、語り、歩むべきである(サインズ・オブ・タイムズ 1886年6月7日)

12月20日

クリスチャンは一つ一つの行為において キリストをあらわす

「兄弟たちよ。あなたがたは、たゆまずに良い働きをしなさい。」(テサロニケ第二 3:13)

わたしたちはキリストに従うと公言する人々に、自分たちに負わされている厳粛な責任に目覚めさせるために何を言うことができるであろうか。昼の間に働くように彼らを目覚めさせる声がないであろうか。わたしたちの神聖な主人は、墮落した世のためにご自分の命を与えてくださった。だれが自己を否定し、このお方がそのために死なれた魂を救うために犠牲を払うであろうか。

人生の一つ一つの行為において、クリスチャンはキリストをあらわすこと—このお方の奉仕を魅力的に見せること—を求めるべきである。だれも宗教を、不平やため息によって、また自分たちの試練や自己否定や犠牲を語ることによって不快なものとするところがないようにしなさい。短気やいらだちや文句によって、あなたの信仰の告白に偽りを与えないようにしなさい。御霊の恵みが親切、柔和、寛容、快活のうちにあらわれるようにしなさい。キリストの愛が永続的な動機であること、またあなたの宗教は状況に合わせて脱いだり着たりするものではなく、落ち着いた着実で変わることはない原則であることがわかるようにしなさい。

ああ、誇り、不信、利己心が、汚れたがんのように、多くの自称クリスチャンの心の中で生きた信心を食い尽くしている。……

イエスへの愛は見えるものであり、感じられるものである。それは隠すことができない。それは驚くべき力を発揮する。それは臆病な者を勇敢にし、怠け者を勤勉に、無知な者を賢くする。それはどもる舌を雄弁に、眠っている

知性を新しい命と活力に目覚めさせる。それは失望している者を希望のある者とし、憂うつな者を喜ぶ者とする。キリストへの愛はそれを持つ者がこのお方のために責任を受け入れ、それらをこのお方の力のうちに担うよう導く。キリストへの愛は苦難によって落胆することなく、恥辱によって義務からそれることもない。……

キリストにある平安は、地上のあらゆる宝にまさって価値がある。心を尽くして主を求めよう。柔和で心の低い者となるためにキリストに学ぼう。そうすればわたしたちは魂に休息を見出す。わたしたちの眠っている精力を目覚めさせ、活動的で、真剣で、熱心になろう。クリスチャンの模範とふるまいは、言葉と同様に、罪人が命の泉の許へ行こうとする願いを起こさせるようなものであるべきである。

そうであれば、わたしたちの心を義の太陽の明るい光線に向かって開こうではないか。快活に喜んで、わたしたちの主人の奉仕において働こう。このお方の聖徒たちの集会の中で言葉によって賛美するだけでなく、よく秩序だてられた生活と信心深い会話—活動的で高尚なクリスチャン努力—によってこのお方を賛美しよう。善を行うことにうみ疲れなければ、ついには勝利することを覚えて、わたしたちの召しと選びを確かなものとするために勤勉に励もうではないか。(サインズ・オブ・タイムズ 1886年6月24日)

12月21日

聖書は欺瞞に対する保護手段

「ただ律法と証詞(あかし)とを求むべし、彼らの言うところこの言にかなわずば晨光(しのめ) あらじ。」(イザヤ 8:20 文語訳)

神の民には、偽りの教師の感化と暗黒の霊の欺瞞的な力に対する防壁として、聖書がさし示されている。サタンは、人が聖書の知識を得るのを妨げるためにはあらゆる手段を用いる。なぜなら聖書の明白な言葉は彼の欺瞞を暴露するからである。……偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。すべての言説や奇跡は、聖書のあかしによって吟味されなければならない。

神の戒めのすべてに従おうと努力する者は、反対と嘲笑に会うであろう。彼らは神のうちにあるときのみ立つことができる。彼らは目の前にある試練に耐えるためには、み言葉の中に示されている神のみこころを理解しなければならない。彼らは、神のご品性、統治、御目的について正しい理解を持ち、それに従って行動するときのみ、神をあがめることができる。聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、だれも最後の大争闘に耐え抜くことはできない。……

使徒パウロは終末の時代を予見して、「人々が健全な教に耐えられなくなると言明した(テモテ第二 4:3)。その時がちょうど到来している。多くの人々は聖書の真理を好まない。なぜなら真理は、罪深い、世を愛する心の欲望を、妨げるからである。そしてサタンは、彼らの好む偽りを提供するのである。

しかし神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議(これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびたしい数にのぼって内容も千差万別

である)、大衆の声、—これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、「主はこう言われる」という明日な事実をその裏づけとして要求すべきである。

サタンはいつも、神の代わりに人間に注意を向けさせようと努力している。彼は、人々が自分で聖書を探って自分の義務を学ばないで、監督や牧師や神学者を案内者とするように導く。そうするときに、サタンはこれらの指導者たちの心を支配することによって、大衆を意のままに感化することができるのである。

キリストがいのちのみ言葉を語りこられた時、一般の人々は喜んでそれを聞いた。そして多くの者が、祭司や役人たちでさえ、主の言われることを信じた。(各時代の斗争闘下巻 358～361)

12月22日

神はご自分の選ばれた者たちのために 力強く働く

「あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。川の中を過ぎるとき、水はあなたの上にあふれることがない。あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃えつくことがない。」(イザヤ 43:2)

三人のヘブルびとは、彼らが礼拝する神に対する信仰を、バビロン全国に宣言した。彼らは神に信頼した。彼らは試練の時に、「あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。……あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃えつくことがない」という約束を思い出した(イザヤ書 43:2)。そして彼らの生けるみ言葉に対する信仰は、すべての人々の前で、驚くばかりに榮譽を受けたのである。彼らの驚くべき救いの知らせは、ネブカデネザルに招かれて落成式に来ていた多くの国々の代表者によって、広く国々に伝えられた。神はその民の忠実さによって、全地においてそのみ名が崇められたのである。

ドラの平野でのヘブルの青年たちの経験から学ぶべき教訓は、実に重大である。このわれわれの時代においても、神のしもべたちの多くは何の悪い行為もしていないにもかかわらず、サタンにそそのかされてねたみと宗教的頑強さに満たされた人々の手に渡されて、屈辱と迫害を受けるのである。特に第四条の安息日を清くする者に対しては、人々の激しい怒りが燃やされる。そしてついに、世界的法令が発布されて、これらの人々を死に価する者として告発するのである。

神の民はこれらの悩みの時を前にして、揺らぐことのない信仰を持たなければならぬ。神の民は、ただ神だけが礼拝の対象であること、そしていかに重大なことであり、それが生命そのものにかかわるものであっても、彼らを偽

りの礼拝に少しでも妥協させることはできないことを明らかにしなければならない。忠実な心の持ち主にとっては、罪深い有限な人間の命令は、永遠の神の言葉と比較するときに、全く無意味なものになってしまうのである。たとえば投獄と追放の憂き目に遭い、死に処せられても真理には従うのである。

シャデラク、メシャク、アベデネゴの時代のように、主は地上歴史の最後の時代において、正義のために固く立つ人々のために、大いなる働きをなさるのである。ヘブルの勇者たちと火の燃える炉の中を歩かれたかたは、どこであつても、主に従う人々とともにおられるのである。彼の臨在が彼らを慰め支える。

国が始まってからその時に至るまで、かつてなかったほどの悩みの時の最中に、神に選ばれた人々は揺らぐことなく立つのである。サタンは悪の全軍をもってしても、神の聖徒たちの最も弱い者をさえ滅ぼすことはできない。強い力をもった天使が彼らを守る。そして主は、主に信頼する者を全く救うことがおできになる「神々の神」として、彼らのためにご自身をあらわされるのである。(国と指導者下巻 120,121)

12月23日

神と格闘して勝利する

「主なる神は言われる、わたしは生きています、たといノア、ダニエル、ヨブがそこにいても、彼らはそのむすこ娘を救うことができない。ただその義によって自分の命を救いうるのみである。」(エゼキエル 14:20)

神は人生の小さなことにおける不忠実を見のがされると、サタンは多くの者に思い込ませている。しかし、主は、ご自分が、悪を是認することも大目に見ることもなさらないかたであることを、ヤコブの取り扱いにおいて示された。罪の言いわけをしたり、隠したりして、それを告白せず、許されないまま、天の書に残しておく者は、みなサタンに負けてしまうのである。口でりっぱなことを言い、栄誉ある地位にあればあるほど、その人々の行動は、神の目には嘆かわしいものである。……

ヤコブの生涯はまた、欺かれ、試みられ、罪に陥れられても、真に悔い改めて神に立ちかえった者を、神は見捨てられないという保証でもある。サタンはこのような人々を滅ぼそうとするが、神は天使を遣わして、危機の時に彼らを慰め、保護されるのである。

サタンの攻撃は、激しく、断固たるもので、彼の欺瞞は恐るべきものである。しかし、主の目はご自分の民に向けられ、その耳は彼らの叫びを聞かれる。彼らの苦悩は大きく、炉の火は彼らを焼き尽くすように思われる。しかし、金を吹き分ける者であられる神は、彼らを火で練った金として取り出される。この最も激しい試練の時に於ける、神のその子供たちに対する愛は、彼らの最も輝かしい繁栄の時と同じように、強く、やさしいのである。しかし、彼らは、火の炉に投げ入れられる必要がある。キリストの姿が完全に反映されるように、彼らの世俗的なところが焼きつくされねばならない。

われわれの前にある苦悩と苦悶の時は、疲労と遅延と飢えに耐えることの

できる信仰、すなわち、激しく試みられても落胆しない信仰を要求する。その時に備えるために、すべての者に恩恵期間が与えられている。ヤコブは、断固として屈しなかったために勝利した。彼の勝利は、しきりに願い求める祈りに力があるということの実証である。彼のように神の約束をしっかりとつかみ、彼のように熱心で忍耐強い者はみな、彼が勝利したように勝利するのである。自分をすて、神の前で心を悩まし、神の祝福を求めて熱心に祈り続けようとする者は、それを受けることができない。

祈りによる神との格闘—このことを知っている人がなんと少ないことであろう。熱烈な願いをもって、心から神によりすがり、全力を注ぎ出す人がなんと少ないことであろう。嘆願者の上に、言葉では表現することのできない絶望の波が押し寄せるときに、確固不動の信仰をもって神の約束にすがる者が、なんと少ないことであろう。……

世界に最後の厳粛な警告を伝える使命者たちが、……ヤコブのように、熱烈に、信仰をもって神の祝福を祈り求めるならば、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」と言うことのできる多くの場所を見いだすであろう(創世記 32:30)。天は彼らを、神と人ともに勝つ力をもった王子たちとみなすのである。(各時代の犬争闘下巻 393～396)

12月24日

神の民は保護される

「主はあなたを守る者、主はあなたの右の手をおおう陰である。昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。主はあなたを守って、すべての災を免れさせ、またあなたの命(魂)を守られる。」(詩篇 121:5～7)

キリストが聖所における彼のとりなしをやめられるとき、獣とその像を拝み、その刻印を受ける者たちに警告された、混ぜもののない怒りが注がれる(黙示録 14:9, 10 参照)。神がイスラエルを救い出そうとされたときに、エジプトにくだった災いは、神の民の最後の救出の直前に世界にくだるもつと恐ろしくもつと広範囲に及ぶ刑罰と類似した性格のものであった。……

これらの災いは、全世界的なものではない。さもないと、地上の住民は全く滅ぼされてしまうであろう。しかし、それでもこれは、人類史上かつてなかった恐ろしい災いである。恩恵期間の終了する前に人々の上にくだった刑罰には、あわれみが混じっていた。キリストのとりなしの血によって、罪人はその罪にふさわしい罰を受けずにすんだのである。しかし、最後の刑罰においては、あわれみを混じえずに怒りが注がれるのである。……

神の民は苦難を免れるわけではない。彼らは迫害と苦しみに会い、窮乏に耐え、食物の不足に苦しむのであるが、滅びるままにほうっておかれたりはしない。エリヤを養われた神は、ご自分の献身的な子供たちをひとりも見捨てられない。彼らの頭の毛までも数えられるおかたが、彼らを保護し、ききんの時にあつて満ち足らせられる。悪人たちが飢えと疫病のために死んでいくときに、天使は義人を守り、その必要を満たすのである。「正しく歩む者」には、次のような約束が与えられている。「そのパンは与えられ、その水は絶えることがない。」「貧しい者と乏しい者とは水を求めても、水がなく、その舌がかわいて焼けているとき、主なるわたしは彼らに答える、イスラエルの神なるわたし

は彼らを捨てることがない」(イザヤ書 33:15, 16; 41:17)。

「いちじくの木は花咲かず、ぶどうの木は実らず、オリーブの木の産はむなしくなり、田畑は食物を生ぜず、おりには羊が絶え、牛舎には牛がいなくなる。」しかし、主を恐れる者たちは、「主によって楽しみ、わが救いの神によって喜ぶ」(ハバクク書 3:17, 18)。……

「昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。主はあなたを守って、すべての災を免れさせ、またあなたの命を守られる。」「主はあなたをかりゆうどのわなと、恐ろしい疫病から助け出されるからである。主はその羽をもって、あなたをおおわれる。あなたはその翼の下に避け所を得るであろう。……あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、災はあなたに臨まず、悩みはあなたの天幕に近づくことはない」(詩篇 91:3 ~ 10)。(各時代の犬争闘下巻 400 ~ 405)

生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。(初代文集 149)

12月25日

聖書は正確な時を知らせてはいない

「隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである。」(申命記 29:29)

「クリスマスが来る」という音色が、東西南北を通じて世界中に鳴り響いている。青年にとっても、中年にも、高齢者にできえ、全般的に楽しみの季節であり、大いなる喜びである。しかし、これほどの注目を集めているクリスマスとは何であろうか。この日は何世紀もの間、大いに重視されてきた。それは不信仰の世界でもクリスチャン世界でも全般的にキリストがお生まれになった日として受け入れられている。世界はこの日を大いに祝っているが、キリストに対して何の尊敬も表していない。彼らはこのお方を自分たちの救い主として認めず、このお方の礼拝への自発的な従順によって誉れを帰すことを拒んでいる。彼らはこの日を好むが、この日に祝っているお方、イエス・キリストに対しては何の関心も示さない。

12月25日はキリストの誕生日だとされており、その遵守が習慣となり、一般となっている。しかし、それでいながら、わたしたちは本当に自分の救い主の誕生日を守っているのか定かではない。歴史はこの点について確かな保証を与えていない。聖書は正確な時を知らせてはいない。主がこの知識をわたしたちの救いに重要不可欠とお考えになったなら、ご自分の預言者や使徒たちを通して、わたしたちがこの問題についてすべて知ることができるように語られたことであろう。しかし、聖書がこの点について沈黙していることは、最も賢明な目的のためにわたしたちから隠されていることを明示している。……神はキリストの誕生の正確な日にちを隠された。それはこの日が、世の贖い主としてキリストに与えられるべき誉れを受けることがないためである。このお方

そ、ご自分の許にくるすべての人を最高にまで救うことができるお方として、受け入れ、信頼し、依存するべきお方である。魂の崇敬は、無限の神の御子としてイエスに与えられるべきである。

12月25日は何ら天与の神聖さを与えられていない。そして何であつても、人のために払われた無限の犠牲による人の救いにかかわることが、悲しくもその公然とした意図からゆがめられることは、神にとって喜ばしいことではない。キリストが最高の対象であるべきである。……イエス、天の大君、天の王は、ご自分の王権をわきへおき、栄光の御座を去り、最高指揮権を後にして、罪によって腐敗し道徳力が弱くなり、墮落した人類に神聖な助けをもたらすために、わたしたちの世に来られた。このお方は人類の苦悩と悲惨の深みにまで達し、墮落した人類を引き上げるために、ご自分の神性を人性で覆われた。ご自身に人間の性質を取られることにより、このお方は人類を神と同等の道徳的価値という秤の中に引き上げてくださった。これらの大いなる主題はあまりにも高く、深く、無限であつて、有限である人の思いでは、ほとんど理解できない。

親はこれらの事柄を自分の子供たちの前にいつも保っているべきである。(レビュ・アノド・ハルド 1884年12月9日)

神を愛する人々は、子供や青年たちに深い関心を感じるべきである。彼らに神はご自分の真理と救いをあらわすことがおできになる。イエスはご自分を信じる小さな者たちをご自分の群れの小羊とお呼びになる。このお方は子供たちに特別な愛と関心を持っておられる。……子供たちがイエスに与えることのできる最も尊い捧げ物は、彼らの幼年時代の新鮮さである。(同上 1889年12月17日)

12月26日

贖われた者は、 「小羊こそはふさわしい」と賛美する

「シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与えさせるためである。」(イザヤ 61:3)

幾百万という人々が、サタンの欺瞞的主張に服することを断固として拒んだために、汚名を着せられて墓にくだっていった。……しかし今、「神はみずから、さばきぬし……である」(詩篇 50:6)。今、地上の判決はくつがえされる。……彼らは、もはや、弱く、苦しめられ、追い散らされ、圧迫される人々ではない。これからは、彼らはいつまでも主とともにいるのである。……

彼らは、地上のどんな栄誉ある人も着たことのない美しい衣を着て、み座の前に立つ。彼らは、地上のどんな王もかぶったことのない輝かしい王冠をかぶる。痛みとなげきの時は、永遠に過ぎ去った。栄光の王が、すべての者の顔から涙をぬぐいとってくださいました。悲しみの原因はすべて取り去られた。彼らは、しゅろの枝を振りかざしながら、美しく澄んで調和のとれた賛美の歌を歌い出す。すべての者が、その調べに和して歌い、賛美の歌は、天の丸天井に満ちあふれるのである。「救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる。」……

この世においては、われわれは、贖いという驚嘆すべきテーマについてほんの初歩のことしか理解できない。……われわれの有限な理解力でどんなに熱心に探り調べてみても、そしてわれわれの知力のかぎり尽くしてみても、われわれはその意味を十分につかむことはできない。贖いの愛の長さ、広さ、深さ、高さは、かすかにしか理解されない。贖いの計画は、贖われた者たちが、見られているように見、知られているように知る時においてさえ、十分には理

解されない。そして、永遠にわたって、新しい真理がたえず示されて、心は驚きと喜びに満たされるのである。地上の嘆き、痛み、誘惑は終わり、その原因は除かれても、神の民は、自分たちの救いのためにどんな価が払われたかということについて、はっきりした理解を持ち続けるのである。

キリストの十字架は、永遠にわたって、贖われた者たちの科学となり歌となる。栄光につつまれたキリストのうちに、彼らは、十字架につけられたキリストを見る。……救われた諸国民が、贖い主を見て、そのみ顔に天父の永遠の栄光が輝いているのをながめるとき、また、永遠から永遠にいたるイエスのみ座をながめ、イエスのみ国には終わりが無いことを知るとき、彼らはどっと歓喜の歌声をあげて、「ほふられた小羊、ご自身の尊い血によって、わたしたちを神に贖って下さったおかたは、賛美を受けるにふさわしい、賛美を受けるにふさわしい」と叫ぶのである。……

あわれみ、やさしき、父としての愛情が、聖潔、公平、力と入りまじって見える。われわれは、高くかかげられた神のみ座の威光をながめる一方では、神のご品性の恵み深いあわれみを見て、「われらの父よ」というあの永遠に続く称号の意味を、いままでになく理解するのである。(各時代の争闘下巻 432～434)

12月27日

神の民の救出

「それは主が悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上にわたしを高く置かれるからである。」(詩篇 27:5)

神の民は、熱烈な渴望を抱いて、来たるべき彼らの王のしるしを待望する。「今は夜のなんどきですか」と、夜回りが問われると、なんのためらいもなく「朝がきます、夜もまたきます」と答える(イザヤ書 21:11, 12)。山頂の雲間に光がきらめいている。やがて、主の栄光があらわれる。……天は、永遠の日のあけぼのに輝き、「あなたがたの忠誠を保ち続けよ。援助は与えられる」と言う言葉が、天使の歌のメロディーのように耳に聞こえる。……

尊い救い主は、われわれが助けを必要とするちょうどその時に、助けをお送りになる。天への道は、彼の足跡によって清められている。われわれの足を傷つけるとげは、どれも彼の足を傷つけたものである。われわれが負わせられる十字架は、すべて、われわれに先だって彼が負われたものである。主は、魂に平和をもたらすための準備として、争闘が臨むことを許されるのである。悩みの時は、神の民にとって恐ろしい試練である。しかしそれは、すべての忠実な信者にとって、上を見上げ、主をとりまく約束のにじを信仰によって見る時である。……

神の目は、各時代を見通して、地上の勢力の総攻撃が起こるとき神の民が直面しなければならない危機に注がれる。彼らは、捕われた流浪の民のように、飢えや暴力によって死ぬのではないかと恐れる。しかし、イスラエル人の前で紅海を分けられた聖なる神は、その大いなる力をあらわして、彼らを捕われの身からもどされるのである。「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ」(マラキ書 3:17)。

この時、キリストの忠実な証人たちの血が流されたとしても、それは、殉教者の血のように神のために収穫をもたらすためにまかれる種とはならないのである。彼らの忠誠は、他の人々に真理を悟らせるあかしとはならない。なぜなら、強情な心は、寄せてくるあわれみの波を拒み続けて、それらが二度とかえって来ないようにしてしまったからである。今義人が、むざむざ敵のえじきになるならば、それは暗黒の君の勝利になってしまう。そこで詩篇記者は「主(は)悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠(される)」と言っている(詩篇 27:5)。

キリストも言われた。「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。見よ、主はそのおられる所を出て、地に住む者の不義を罰せられる」(イザヤ書 26:20, 21)。彼が来られるのを忍耐して待つ者たち、その名がいのちの書に記されている者たちの救出は、実に輝かしいものとなる。(各時代の争闘下巻 409～411)

12月28日

パウロの勝利の証

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬぎ、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」(テモテ第二 4:7, 8)

この信仰の人〔パウロ〕は、天と地をつなぎ、また有限な人間を無限の神につないで下さったキリストを表わす、ヤコブの幻のはしごを見上げる。自分を支え慰めて下さるおかた、そして、自分がいのちをささげようとしているそのおかたを、父祖たちや預言者たちがどんなに深く信頼していたかを思い起こして、彼の信仰は強められる。

各時代にわたって信仰のあかしを立ててきたこれらの聖徒たちから、パウロは、神が真実であられるという保証を聞く。パウロの仲間の使徒たちは、キリストの福音を宣べ伝えに出て行き、宗教的偏狭さや異教の迷信、迫害、軽蔑に会ったが、不信心の暗い迷路の真ただ中に、十字架の光を高く掲げることができれば、自分たちのいのちは惜しいとは思わなかった。これらの人々が、イエスを神のみ子、世の救い主としてあかししているのを、パウロは聞く。

拷問台や火あぶりの柱、土牢から、地のほら穴から、殉教者の勝利の叫びがパウロの耳に聞こえてくる。彼は、忠実な人々が、たとえ欠乏しても、悩まされ苦しめられても、なお恐れなく厳粛に信仰をあかしし、「わたしは自分の信じてきたかたを知って」いると言うのを聞く。信仰のために自分のいのちをささげる人々は、自分たちの信じてきたおかたこそ完全に救うことができるのであると、世に向かって宣言しているのである。

キリストの犠牲によってあがなわれ、その血によって罪からきよめられ、そ

の義を着せられて、パウロは、自分の魂はあがない主の御目に尊いものだというあかしを持っている。彼の生命はキリストと共に神のうちに隠され、彼は、死を征服されたかたはご自分にゆだねられたものを守ることがおできになると確信している。彼の心は、「わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」という救い主の約束をつかんでいる（ヨハネ 6:40）。彼の思いと望みは、主の再臨に集中している。そして、執行人の剣がふり下ろされて、死の影が殉教者のまわりを取り巻くとき、わき上がる最後の思いは、大いなるよみがえりのときの最初の思いと同じく、いのちを与えて下さるおかたにお会いし、そのかたが、祝福された者の喜びに自分を入れて下さるということである。……

彼の勇気はキリストの幾千の証人を奮い立たせ、悲しみに沈んだ幾千の人々の心に、彼自身の勝利の喜びを反響させている。「……わたしは戦いをりっぱに戦いぬぎ、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、……主が、それを授けて下さるであろう」。(患難から栄光へ下巻 210, 211)

12月29日

わたしたちの栄光に満ちた運命

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた。」(コリント第一 2:9)

サタンに捕われ墮落していた魂は、福音によって贖われ、神の子らの輝かしい自由にあずかるはずである。神のみ旨は、罪の不可避の結果である苦しみから解放することだけではなく、罪そのものから救うことである。汚れてゆがんだ魂も変えられて清くなり、「われらの神、主の恵み」を身につけて、「御子のかたちに似たもの」となることができる(詩篇 90:17、ローマ 8:29)。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(コリント第一 2:9)。神のみかたちに回復された人類の到達することのできる輝かしい運命は、永遠のみが明らかにすることができるのである。

わたしたちがこの高い理想に達するためには、魂をつまずかせるものは犠牲にしなければならない。わたしたちが罪の支配下にあるのは意志によるのである。……意志を神に従わせることは、人生を不具のからだで過ごすかのように思えることがよくある。しかしこのようにして、命にはいれるのであれば、からだに傷をもち、不具となるほうがよいのだとキリストは言われる。不幸と見えることが何よりの幸福への門口なのである。

神は生命の泉であるから、わたしたちは神と交わっている時だけ、生命を持つことができる。神から離れても、しばらくは生存することができるが、そこには生命がない。……わたしたちの意志を神に従わせてはじめて、神はわたしたちに生命をわけ与えることがおできになる。自己放棄により、神の生命を受けてはじめて、わたしの指摘したこれらの罪に打ち勝つことができるのである。……罪を心の中にひめて人の目から隠すことはできても、神のみ前にはほど

うして立つことができよう。……罪は、それがどこに見いだされようとも、神は焼き尽くす火である。……

自己を神にささげることには犠牲が伴うが、これはより高いものを得るために、より低いものを犠牲にすることであり、霊的なものために世俗的のものを犠牲にすることであり、永遠のもののために滅びゆくものを犠牲にすることである。神はわたしたちの意志を破壊しようとは考えておられない。神がわたしたちにさせようとしておられることを、わたしたちは意志の働きを通してはじめて行なうことができるのである。意志は神にささげられなければならないが、それはねりきよめられ、神の思いと一つに結びついたその意志をわたしたちが再び受けて、神がご自分の愛と大能の潮流をわたしたちを通して注ぐことができるようになるためである。強情でわがままな心には、この降伏がどんなにつらく苦しいものに思われても、そうするほうが「あなたにとって益である」(マタイ 5:30)。

ヤコブはかたわとなり、どうすることもできなくなり、契約の天使の胸にすがって、はじめて信仰の勝利を知り、神の王子という称号を受けることができたのであった。(祝福の山 75～77)

12月30日

心のきよい人はキリストを映す

「心の潔白を愛する者、その言葉の上品な者は、王がその友となる。」(箴言 22:11)

神の都には汚れたものは何一つはいれない。その住民となるすべてのものは、この地上で心の清いものになっていなくてはならない。イエスに学んでいる者の中には、不注意なふるまいや、不適当な言葉や、下品な思いに対する嫌悪が徐々に強まってくる。キリストが心に住まわれる時、思いと行為が純潔になり、洗練されるのである。

しかし「心の清い人たちは、さいわいである」とのイエスの言葉は、もっと深い意味をもっている。単に世が純潔と考える意味での純潔— 肉体的なものにとらわれず、情欲に汚れていない— を言うのでなく、心のかくれた目的や動機において真実であり、誇りや利己主義から解放され、謙そんで、無我で、幼な子のような者であることを意味する。……

しかし、聖霊の内住によってきよめられてきた心にとっては、すべてが変わってくる。これらの人々は神を知ることができる。モーセは主の栄光が現わされた時、岩の裂け目にかくれた。わたしたちが神の愛を見るのは、キリストの中にかくれる時である。

「心の潔白を愛する者、その言葉の上品な者は、王がその友となる」(箴言 22:11)。信仰によって今ここでわたしたちは神を見る。日々その経験の中に、神の摂理の現われの中に、わたしたちは主のいつくしみとあわれみをはっきり知る。……心の清い者は、自分たちの贖い主として新しい関係をもって神を見る。彼らは主の品性の純潔と美しさを見ると同時に、主のみかたちを反映することを切望する。彼らは悔い改めたむすこを抱きかかえようとひたすら待つている父として神を見る。そして彼らの心は言いあらわせない喜びと輝く栄光に

満たされるのである。

心の清いものは、その偉大なみ手のわざに、また宇宙を構成している美しい事物の中に創造主を見る。神の書かれたみことばの中に、神のあわれみ、いつくしみ、めぐみの啓示をはっきりと読むのである。……

知恵のある者や賢い者には隠されている真理の数々が、幼な子にあらわされるのである。この世の知者にはわからない真理の美と尊さが、神のみ心を知り行なおうと、幼な子のように信頼して望むものに、たえず示されていく。わたしたちは、自分が神の性質にあずかる者となることによって、真理を見分けるのである。

心の清いものは、神が彼らにこの世で生を与えておられる間、神が目の前におられるかのように生活する。そしてアダムがエデンにおいて、神と共に歩み、語ったように、来たるべき不死の状態において、彼らもまた顔と顔をあわせて神を見るのである。「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう」(コリント第一 13:12) (祝福の山 30 ~ 33)

12月31日

クリスチャンは天の光を映す

「山の上にある町は隠れることができない。また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照らせるのである。」(マタイ 5:14, 15)

「あなたがたは世の光である」とキリストはご自分の弟子たちに言われた。太陽が夜陰を追い払い、世界を明るさで満たしながら、諸天に出て行くように、イエスに従う人々も自分たちの光が輝くままにさせ、罪のうちに伏している世界の道徳的な闇を追い払うようにしなければならない。しかし、彼らは自分自身のうちには光を持っていない。彼らが世界に反映するのは、天の光である。

「山の上にある町は隠れることができない」。わたしたちの思想や目的は行為のひそかな泉であり、そのために品性を決定するものである。心のうちに形づくられた目的は、言葉や行動に表されなくても、罪となり、魂を罪に定めることができる。一つ一つの思想、感情、傾向は、人の目に見えなくても、神の御目には明らかである。しかし、人が同胞の品性を判断できるのは、心の中に根ざした悪が、熟して、不法な言葉や行為にあらわれたときだけである。

クリスチャンは、キリストの代表者である。彼は世に、変化させる神聖な恵みの力を示さなければならない。彼は神の真理の生ける手紙であり、すべての人に知られ、読まれる。真にキリストに従う者であるかどうかを決定する、キリストから与えられた基準は、次である、「その実によって彼らを見わけるであろう」。……

クリスチャンの信心深い生活と聖なる会話は、罪と罪人に対する日ごとの証である。しかし、わたしたちは自己ではなく、キリストを表さなければならない。キリストは罪のための偉大な治療法である。わたしたちの憐れみ深い贖い主は、必要としている助けをわたしたちのために備えてくださった。このお方はま

ごころから悔い改める者にご自分の義を与え、わたしたちの恵み深い贖い主だけが吹き込むことのできる神聖な愛をその心に灯そうと待っておられる。そうであれば、地上におけるこのお方の証人、すなわち天の宮廷からのこのお方の大使だと公言しているわたしたちは、世に光を担う者として自分の信任に忠実であることによって、わたしたちが代表しているお方に栄光を帰そうではないか。

最終的に永遠の命を自分のものとする者はみな、この地上で神の奉仕に熱心さと献身をあらわすのである。彼は試練や困難や恥辱が迫っても、義務の地位を離れることがない。彼は聖書を勤勉に学ぶ生徒となり、自分の道のりに輝く光に従う。何か率直で聖書的な要求が提示されたときに、もし自分が神の民の立場をとったら、友人たちは何と言うだろうと問うために立ち止まったりはしない。自分の義務を知って、彼は心から恐れることなく、それを行うのである。

このように真心からイエスに従う人々について、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないと言われる。真理の神が彼らの側におられるのであり、決して彼らをお捨てになることはない。キリストのための一見損失と見えることを、彼らは無限の益とみなすのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1886年3月25日)

研究 18

三重のメッセージ



第三天使のメッセージ

Part 5

神の戒めとイエスの信仰

(残りの教会)

「ここに、神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある」(黙示録 14:12 英語訳)。

「この終わりの時代には、主の定めとおきてを守るようにとあなたを招く天からの招きがある。世は、エホバの律法を無視してきたが、神はご自分の義に対する証人や、この地上でご自分の真理を宣布する民なしに放っておかれることはない。天の聖所の戸はこれまで開かれてきたし、それを閉じることができる人はひとりもない。そして至聖所の光が世に差し込んでいる。神の民は証の箱に注目してきた。そして、その中にある律法は、その不変の規則を明らかにしてきた。聖なる幻の中でヨハネは地上の残りの教会が、無法時代にいるのを見た。そして彼は間違えようのない言葉で彼らを指し示している、すなわち「ここに、神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある」。彼らは、天の聖所の至聖所の中にある箱に安置された律法と調和している。人間の義務全体は、神聖な規則のうちに要約されている。律法の中心には、世と教会がその足の下に踏みこびってきたエホバの安息日を遵守するよう人間に命じている戒めがある。幾世紀の間、人間は真の安息日に関して、盲目のうちに歩んできた。そしてこの無知の時代を神は見過ぎてこられたが、今は改革の時代であり、このお方はどこにいる人々にも悔い改めるようにと要求しておられる。無視されてきた神の戒めの光が真心から神を愛する人々の道を照らしたとき、彼らはそのおきてを守ることをためらわなかった。彼らは世から出て分離し、汚れたものに触れてはならない

ことを悟った。それは、彼らが「触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」という約束をわがものとして主張できるためであった。彼らは神の律法のうちにできた破れを繕う者となった。なぜなら、彼らは安息日に自分の足をとどめ、神の聖日におのが楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らなかつたからである。

そこで今問題は、わたしたちは神の戒めとイエスの信仰を守る人々に自ら手を結ぶであろうかということである。わたしたちはわたしたちの神、主の安息日を踏みにじることをやめるであろうか。わたしたちは自分たちが光の子であることを、また自分たちの贖い主であり、模範であられるお方のみ足の後に従っているかを確かめたいのである」(サイズ・オブ・タイムズ 1888年2月3日)。

「イエスの信仰とイエスの証は一体となっている。それらは世にはっきりと提示されなければならない。しかし、神のみ言葉に、わたしたちにはこのメッセージを宣布する結果が示されている。「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」。神の戒めに従うことを拒否し、これらの戒めを宣布する人々に対してあくまでも憎しみを抱く結果、神の戒めを守る民に敵対して全エネルギーを注いでいる龍の側に味方して戦う最も断固とした戦争へと導かれることになる。「小さき者にも、大なる者にも……すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ」る。日曜日に自分たちの手をもって働かないばかりではなく、自分たちの思いをもって日曜日を安息日だと認めなければならなくなる。『この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである』(パンフレット 086 巻 6, 7)。

戒め(律法)は聖なるもの

「主のおきては完全であつて、魂を生きかえらせ(改心させ)」(詩篇 19:7)。

「戒めも聖であつて、正しく、かつ善なるものである」(ローマ 7:12)。

「神ご自身と同様に、神聖な神の律法に反対して成功を取める天使は一人もい

ない」(人類のあけぼの上巻12)。

「神の律法は、神ご自身と同様に、神聖なものである。それは、神の意志の啓示であり、神の品性の写し、神の愛と知恵の表現である。造られたものの調和は、生物であれ、無生物であれ、すべてのものが創造主の律法に完全に一致していることにかかっている」(人類のあけぼの上巻38)。

「神の律法は、神ご自身と同様に神聖であるから、罪の贖いをする事ができるのは、神と等しいかただけであった。罪を犯した人間を律法ののろいから贖い、再び、天と調和させることができるものは、キリストのほかにはなかった」(人類のあけぼの上巻53)。

「神の律法は神ご自身と同様に神聖なものであったので、このお方は天地にいるすべてのものから絶対的な服従を要求なさった」(預言の霊1巻34)。

「背教者は神の律法を侮蔑し、天の会議で神によって定められた神の戒めを人間が守ることは不可能であると宣言した。そのために、キリストは人間の代理人、また保証人となられ、こうして天の知的存在者たちや墮落していない諸世界、また人類に、神と協力することによって、人類は純潔で聖なる者となれることを示されたのであった。神性にあずかることによって、彼らは完全に聖なる律法の要求にこたえることができる」(サインズ・オブ・タイムズ 1894年6月18日)。

主の戒めはまじりなくて(純粹) ……

「主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする」(詩篇19:8)。

「神のみ霊が人間に律法の意味を十分に表されるとき、その心に変化が起こる。ナタンによって自分の真の状態を正確に描写されたとき、それによってダビデは自分自身の罪を認め、そしてそれが罪を捨てさせる助けとなったのであった。彼は柔和に勧告を受け入れ、そして神のみ前に自らをへりくだらせた。彼は「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、……主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする」と言っている」(エレキッド・メッセージ1巻211)。

「神の戒めを守ることには、現世においてさえ大いなる報いがある。自分の良心がわたしたちを責めることがない。わたしたちの心は神に敵対せず、このお方に対して平和を保つのである」(神のむすこ娘たち45)。

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう」(マタイ5:8)。

戒めはともしびである

「戒めはともしびである、教は光である」(箴言 6:23)。

「拘束力のある神の律法の要求の光が、世をテストし、試すことになる」(ライフ・スケッチ 209)。

「真理の光がはっきりとした光線であつたにわたしたちの世に差し込んできた。拘束力のあるエホバの律法の要求、第四条の安息日は、はっきりと際立って区別されている」(ビュー・アンド・ヘラルド 1898年9月13日)。

「パウロは自分の経験を描写して次のように言っている。「わたしはかつては、律法なしに生きていたが、戒めが来るに及んで、罪は生き返りわたしは死んだ」。彼は自分が救い主を必要としていることを見た。義の偉大な標準を調べて、彼は自分自身が律法の光のうちに罪人であることを悟った。しかし彼がキリストのみ顔をながめたとき、彼は確信に満ちて、次のように言うことができた。『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった』という言葉は、確実で、そのまま受けいれるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである」。彼は自分の贖いのために、神のひとり子の血の功績を通して、備えがなされたということ、また自分の名前のところに許しが書き込まれることができるという事実喜びに喜ぶことができた。彼にとって、律法はその正義の一点たりとも無効にされてはいないということ、しかし贖罪の犠牲を通して、すなわち着せられたキリストの義を通して、悔い改めた罪人が律法の前に義とされることができるという事実は明らかであった」(ビュー・アンド・ヘラルド 1899年5月23日)。

女の残りの子ら(残りの民)

「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる」(イザヤ 58:12)。

「ネヘミヤの時代に推進された働きが象徴していた、霊的回復が、次のイザヤの言葉の中に示されている。「彼らはいにしへの荒れた所を建てなおし、さきに荒れすたれた所を興し、荒れた町々を新たに」する。「あなたの子らは久しく荒れ

すたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる」(イザヤ書 61:4; 58:12)。

広く一般が真理と正義から離反しているときに、神の国の基礎である原則を回復しようとする民のことを預言者はここで描写しているのである。彼らは神の律法の破れを回復する民である。すなわち神の律法は、神が選民を保護するために、彼らの周りに置かれた城壁であって、その正義、真理、純潔である戒めに従うことが、彼らを永久に保護するのである。

預言者は間違えようのない明白な言葉で、城壁を建設するこの残りの民の、特別な働きを指し示している。「『もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う』。これは主の口から語られたものである」(同 58:13, 14)。

終末時代に、神のすべての戒めが回復される。人間が安息日を変更したときにできた、律法の破れが回復される。神の残りの民は改革者として世の前に立ち、神の律法がすべての永続的改革の基礎であって、第四条の安息日は創造の記念であり、常に神の力を思い起こさせるものであることを、示さなければならない。彼らは明白な言葉で、十誡のすべての戒めに服従する必要を示さなければならない。彼らはキリストの愛に動かされて、キリストと共に力を合わせて、荒れすたれた所を復興しなければならない。彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者、とならなければならないのである(イザヤ書 58:12 参照)」(国と指導者下巻 277, 278)。

「神の民には神の律法のうちに作られた破れを繕うのになすべき特別な働きがある。そしてわたしたちが終局に近づくにつれ、この働きはますます急を要するものとなるのである。神を愛するすべての人は、自分たちが神の戒めを守ることによって、このお方のしるしを帯びていることを示すようになる。彼らは市街を繕って住むべき所となす者なのである」(世界総会冊子 1902 年 7 月 1 日)。

イエス・キリストの証

「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」(黙示録 12:17)。

「イエスのあかしは、すなわち預言の霊である」(黙示録 19:10)。

「あなたがたはキリストにあつて、すべてのことに、すなわち、すべての言葉にもすべての知識にも恵まれ、キリストのためのあかしが、あなたがたのうちに確かなものとされ、こうして、あなたがたは恵みの賜物にいささかも欠けることがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れるのを待ち望んでいる。主もまた、あなたがたを最後まで堅くささえて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、責められるところのない者にして下さるであろう」(コリント第一 1:5～8)。

「昔、神は預言者や使徒たちの口によって、人々に語られた。この時代には、神はご自分の霊の証によって、彼らに語られるのである」(教会への証 4 巻 147)。

「神のみ言葉は、最も曇った思いを啓発するに足るものであり、それを理解したいという願いが幾分でもある人であれば理解できる。しかしこうしたすべてのことにもかかわらず、神のみ言葉を研究していると公言するある人々は、その率直な教えに真っ向から反対して生活しているのが見られる。そのとき、男にも女にも言い訳の余地がないように、神は率直でするどい証の書をお与えになり、彼らが従うことを怠ってきたみ言葉に連れ戻されるのである」(教会への証 2 巻 454, 455)。

「サタンは……—真理からそらさせるために—偽りのうちを絶えず突き進んでいる。サタンの一番最後の欺瞞は、神の御霊の証を無効にすることである。「幻がなければ、民は滅びる」(箴言 29:18 英語訳)。サタンは、神の残りの民の真の証に対する確信をゆるがすために、様々な方法で様々な代理人を通して、巧妙に働くのである」(セクレット・メッセージ 1 巻 48)。

イエスの信仰

「神のみ子が天父への信仰によって生きられたように、われわれもキリストへの信仰によって生きるのである。イエスは、神のみこころにまったく服従されたの

で、その生涯には天父のみがあらわされた。キリストは、すべての点にわれわれと同じように試みをお受けになったが、ご自分をとりかこむ悪にすこしもけがされずに世人の前に立たれた。このように、われわれもまたキリストが勝利されたように勝利するのである」(各時代の希望中巻 138, 139)。

「偉大な注目の中心であられるイエス・キリストが、第三天使のメッセージから取り残されるようなことがあってはならない。……罪人はたえずカルバリーに目を向けていなければならない。そして幼子のような単純な信仰をもって、彼はキリストの功績に安んじ、このお方の義を受け入れて、このお方の憐れみを信じなければならないのである」(彼を掲げよ 309)。

「魂を救うメッセージ、すなわち第三天使のメッセージが、世に伝えられるべきメッセージである。神の戒めとイエスの信仰は両方とも重要、きわめて重要であり、同じ強さと力で伝えられなければならない。メッセージのはじめの部分がほとんどこれまで論じてこられ、後の部分は無頓着に扱われてきた。イエスの信仰が理解されていない。わたしたちはそれを語り、それに生きなければならない。わたしたちはそれを祈り、そして民がメッセージのこの部分を自分たちの家庭生活に持ち込むよう、教育しなければならない」(キリストを映して 82)。

「イエスの信仰はこれまで見過ごしにされ、無関心で不注意なやり方で扱われてきた。それはヨハネに表されたような重要な位置を占めてこなかった。罪人の唯一の希望としてキリストを信じる信仰は、説教礼拝の中ばかりではなく、まさに第三天使のメッセージを信じると主張している多くの人々の宗教経験についても大いに欠落してきた」(セラケッド・メッセージ 3 巻 168)。

「『イエスの信仰』。それについて語られてはいるが、理解されてはいない。第三天使のメッセージのイエスの信仰とは何であろうか。わたしたちの罪を許す救い主となることができるために、わたしたちの罪を担う者となられたイエス。このお方はわたしたちが当然受けるべき取り扱いを受けられた。このお方はわたしたちの世に来られて、わたしたちがご自分の義を受けることができるように、わたしたちの罪を引き受けられた。そしてわたしたちを十分に、完全に、あますことなく救うことができるキリストの能力を信じる信仰が、イエスの信仰なのである」(セラケッド・メッセージ 3 巻 172)。

神の戒めとイエスの信仰を宣布する第三天使

「神の戒めとイエスの信仰を宣布している第三天使が〔黙示録 14:9～12 参照〕、このメッセージを受け入れ、世に対して神の戒めとこのお方の律法を目の瞳のように守るよう、警告を与える民を表していること、そしてこの警告に応じて、多くの人々が主の安息日を受け入れるようになることを示された」(クリスチャン経験とエロイ・G・お仆の教え 87)。

「第三天使が神の戒めとイエスの信仰を布告しながら、中空を飛んでいるのが見られている。メッセージは飛び翔りながら、その力を少しも失ってはいない。ヨハネは全地が神の栄光で満たされるまで増し加わっていく働きを見た。激しい熱心さとエネルギーをもって、わたしたちは主の働きを時の終わりまで前進させていかなければならない」(教師・両親・生徒への勧告 548)。

「アドベンチストたちが 1844 年の大失望の後、自分たちの信仰を固く守り、一致して神のみ摂理が開かれるうちを進み行き、第三天使のメッセージを受け入れて、聖霊の力のうちにそれを世に宣布していたならば、彼らは神の救いを見、主は彼らの努力と共に力強く働かれ、働きはすでに完成して、キリストはご自分の民を迎え、その報いを受けさせるために今より以前に来られたはずであった。……アドベンチストという教団全体が神の戒めとイエスの信仰の上に一致していたならば、わたしたちの歴史は何と今とは違っていたことであろう」(伝道 695, 696)。

「ヨハネはこの終りの時代に、残りの民が神の戒めを守っていることを示されている。彼らはどこにいるであろうか。サタンの働きについての描写の中で、「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」と述べられている。ここに具体的に述べられている民とはだれであろうか」(原稿 6 巻 343)。

旗印

「このしののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか」(雅歌 6:10)。

「第三天使の旗印には、次のように記されてきた、『神の戒めとイエスの信仰』。わたしたちの機関は自分たちの信仰の特徴を説明している名をとなえてきたのであり、わたしたちはこの名を決して恥じてはならない。わたしはこの名が多くを意味し、これを採用することによって、わたしたちが天から与えられた光に従ってきたことを示されてきた。……安息日は神の創造のわざを記念するこのお方の記念日であり、それは世の前に守られるべき印である」(ヘレグッド・メッセジ 2巻 384)。

「もし教会の信徒たちが自分たちのできる働きをなすために立ち上がり、自分たちの責任で戦いに出て行き、各々イエスに魂を勝ち取るためにどれほどのことが成し遂げられるかを見るならば、わたしたちは多くの人々がサタンの隊列から離れて、キリストの旗印の下に立つのを見ることであろう。もしわが民がこれらのわずかな指示の言葉のうちに与えられた光にしたがって行動するならば、わたしたちは確かに神の救いを見るようになる。すばらしいリバイバルが続く。罪人たちは改心し、多くの魂が教会に加えられるようになる」(教会への証 8巻 264)。

王の命(めい)を守れ

「王の命を守れ。……」(伝道の書 8:2)。

「第三天使は、『ここに神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある』と言って、メッセージを終わっている。彼はこの言葉を繰り返しながら、天の聖所を指差した。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。イエスはそこで箱の前に立って、恵みがなお与えられているすべての人々と、知らずして神の戒めを破った人々のために最後の仲保をしておられるのである」(初代文集 414, 415)。

りんごを考(かんが)えてみてください。りんごのまん中に5つの種があるとしたら、しかし、もしそれらの5つの種が植えられて、5本のあたらしいりんごの木が育(そだ)つとしたら、それぞれの木からどれくらいりんごがとれるでしょうか。おそらく毎年50～200このりんごが、50年間くらい実ることでしょう。これが命の力であり、ただ神さまだけが産(う)みだすことがおできになるのです!



とうもろこしはどうでしょうか?一本のとうもろこしの茎には、たいてい一本以上のとうもろこしの実ができますが、もし一本しかなかったとしても、その一本のとうもろこしには100以上の粒(つぶ)があります。もしこれらの穀粒(こくつぶ)が一つひとつ植えられるとしたら、そのとき神さまはどれほど穀物(こくもつ)をふやすことができるのか、考えてみてください! その秘訣(ひけつ)はなんでしょうか?やはり、おなじ命の力です。

みなさんの信仰(しんこう)はどうですか?それはいまは小さいかもしれませんが。しかしもしそれに「水をやり」、「栄養(えいよう)をやり」、「日光」にあてるなら、それは成長します。どのようにでしょうか?いのりによって、聖書(せいしょ)を読(よ)むことによって、そして礼拝(らいはい)することによってです。イエスさまは次のように説明(せつめい)なさいました。「わたしがあなたがたに話(はな)した言葉(ことば)は霊(れい)であり、また命(いのち)である」(ヨハネ 6:63)。

みなさんの教会(きょうかい)はどうでしょうか?いまはだれも聞いたことがない小さな教会のように思えるかもしれません。しかし、それもまもなく変(か)わります。キリストの恵(めぐ)みと力をとおして現代(げんだい)の真理(しんり)にしたがう地上の神さまの教会は、ながく気づかれずにいることはありません。このお方の真理は勝利(しょうり)し、このお方のみ名は栄光(えいこう)を着(き)せられます。

「からし種のたとえは、この最終時代(さいしゅうじだい)において勝利のうちに輝(かがや)かしい成就(じょうじゅ)を見るのである。小さな種が木になるのである。最後の警告(けいこく)のメッセージが、『あらゆる国民(こくみん)、部族(ぶぞく)、国語(こくご)』に宣(の)べ伝(つた)えられ(黙示録 14:6-14)、『その中から御名(みな)を負(お)う民(たみ)を選(えら)び出(だ)され』る(使徒行伝 15:14)。そして、地は神の栄光によって照(て)らされるのである(黙示録 18:1)。(キリストの実物教訓 57)。生きるのになんとすばらしい時代(じだい)でしょうか!

トマトソースのベジタブルパイ

〔材料〕

●フィリング

たまねぎ	2 個	にんにく	1 片
セロリ	1 本	マッシュルーム	10 個
ニンジン	1 本	じゃがいも	2 個
オートミール	大さじ 3	トマト缶	1 缶
塩	小さじ 2	しょう油	小さじ 1 (お好みで)
オレガノ・バジル	適量	はちみつ	大さじ 1

●パイ生地

小麦粉	4 カップ
全粒粉	1 カップ
油	1 カップ
水	3/4 カップ
塩	一つまみ

〔作り方〕

1. はじめにパイ生地を作ります。粉に塩を混ぜて、油を少しずつ加え、粉を切るようにして混ぜていきます。
2. 次に、同様に水を加えます。
3. まとまったら、冷蔵庫に入れておきます。
4. 次にフィリングを作ります。野菜をみじん切りにして、オリーブ油(材料外)で炒めます。
5. 書いてある順番に加えていき、じゃがいもを入れた後に、トマト缶を加え、調味料を入れて煮込みます。
6. 水分がなくなるまで火を通します。
7. パイ生地を 15 等分して丸め、のばして、中にフィリングを包みます。
8. 180 度のオーブンで 20 分焼きます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



ちっちゃいけど、 かづよい からし種(たね)！

The Mini-Mighty Mustard Seed!
(ミニ・マイティ・マスタード・シード！)

子どものみなさん、からし種を見(み) たことはありますか？もし庭(にわ) に植(う) えたことがあるなら、とっても小さいということに気づくでしょう。もしそれをまちがった場所に落(お) としてしまったら、二度(にど) と見つけられないでしょうね。しかし、イエスさまはご自分の大きな創造(そうぞう) のこの小さな実例(じつれい) について、おどろくようなことを教(おし) えてくださいました。

「神(かみ)の国(くに)を何(なに)に比(くら)べようか。また、どんな譬(たとえ)で言(い)いあらわそうか。それは一粒(ひとつぶ)のからし種(たね)のようなものである。地(ち)にまかれる時には、地上(ちじょう)のどんな種(たね)よりも小さいが、まかれると、成長(せいちょう)してどんな野菜(やさい)よりも大きくなり、大きな枝(えだ)を張(は)り、その陰(かげ)に空(そら)の鳥(とり)が宿(やど)るほどになる」(マルコ 4:30-32)。

イエスさまがご自分の天(あま)の御国(みくに)について語られたとき、人々はとても信じがたいようでした。ある人はもの笑(わら)いの種(たね)にしました。しかし、この小さなからし種(たね)のように、このお方(かた)の子(こ)らに与(あた)えられた力(ちから)強(ちから)い真理(しんり)には、神聖(しんせい)な命(いのち)がありました。福音(ふくいん)の成長(せいちょう)はなんと早(はや)かったことでしょうか！それは、いたるところに広(ひろ)まりました。しかし、イエスさまがからし種(たね)について語られたとき、あたらしい御国(みくに)を代表(だいひょう)する人は、ほんの数人(かず)の漁師(りょうし)しかいませんでした。彼ら(かれら)はこの世(よ)の富(とみ)にはまずしい単純(たんじゆん)な人(ひと)たちでした。しかし、彼ら(かれら)が教えられた福音(ふくいん)の真理(しんり)という「からし種(たね)」は成長(せいちょう)し、世界中(せかいじゅう)に広(ひろ)まるのでした。地上(ちじょう)の偉大(いだい)な王国(おうこく)がほろびるときも、キリストの御国(みくに)は永遠(えいゑん)に続(つづ)きます。なぜ(なぜ)でしょうか。なぜなら、命(いのち)の力(ちから)があるからです。

